2021年度

活動報告書

第16号

関西大学ボランティアセンター

「2021 年度　活動報告書」の刊行に寄せて

ボランティアセンター長　松村　吉信

2005 年 4 月に大阪府内で初めてボランティアセンターを開設した関西大学は、2022 年 4 月に 16 年目を迎えることができました。ボランティア活動が座学では得られない心の成長を促す活動であるとしてその活動に魅力を感じ、これまで多くの学生が参加してまいりました。これも関係各位の多大なるご支援やご協力の賜物と感謝申し上げます。

ボランティアセンターには、学生目線に基づいて社会や学生の関心を理解したうえでの企画、運営を行うことを目的として、学生スタッフを擁しております。環境保全に関すること、地域貢献に関すること、子どもに関すること、連携協定等に基づくこと、防災に関することなど、多彩なテーマの体験プログラムや講座を準備し、ボランティアの魅力を広める活動を行っております。ボランティア活動に参加する学生の動機は、①ボランティア活動を通じて社会に貢献したい、②ボランティア活動を通じて多様な人々とのつながりを得たい、③ボランティア活動を通じて知見を広めたい、など様々で、当センターはこれまで 、一人でも多くの関大生がボランティア活動に魅力を感じ、最初の一歩を踏み出せるように、各種取り組みを行ってきました。

2021 年度も、2020 年 2 月から続く新型コロナウイルス感染症の影響に伴う行動制限や自粛により、春学期では対面で行うほとんどのボランティア活動が中止を余儀なくされました。一方、他の課外活動でも取り組みが進んだオンラインツールを利用した活動を積極的に取り入れ、多くの講座や報告会等を Zoom で実施しました。その他にも、予約制のボランティア・コーディネートや高齢者施設の入居者との交流プログラムもインターネットを利用したオンラインツールで実施することができました。まだまだ、使用したオンラインツールでは対面と同様のボランティア活動はできないものの、人との繋がりが重要となるボランティア活動においても、対面活動が制限される環境においてはオンラインツールの活用の重要性が確認されました。

秋学期は、課外活動の基準の制限緩和に伴い、感染症対策を講じながら以前と異なる形式・運営も取り入れつつ、対面活動を少しずつ再開しました。感染症対策の中には不慣れなものも多く、手探りの対面活動となっていたことと思われます。

また、コロナ禍の影響を受けて実践活動を 2021 年度に繰り延べることとなった、公益財団法人電通育英会助成事業「琵琶湖ツーリズム！大学生が考える環境ボランティアの未来」においては、継続するコロナ禍の行動制限により 2 度の延期を乗り越え、学生の目線で環境ボランティアの未来を考える機会とし、コロナ禍に対応できる学生ボランティアリーダーの育成に取り組むことができました。本学、法政大学及び明治大学の 3 大学連携事業としてオンライン講座も開講し、環境保全等についてともに学び、考え、そして交流などを行ったうえで、法政大学と関西大学の学生が琵琶湖の生態系を守るために特定外来生物の駆除活動を行いました。これら活動は、本来想定した期間よりも長くなったことから、より多くの学生が環境ボランティアを体験することができました。

当センターは、これまで各キャンパスが立地する吹田市・高槻市・堺市の行政や市民団体とも連携し、様々なボランティア活動にも積極的に取り組んでおります。詳細については、本報告書をご覧ください。今後のボランティアセンターの多彩な活動と新たなチャレンジに対し、益々のご理解とご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。

目　次

2021 年度のボランティアセンター活動報告書刊行に寄せて

ボランティアセンター長　松村　吉信

Ⅰ　ボランティアセンターの事業について

1　ボランティアセンターの歩み ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
2　2021 年度ボランティアセンター事業報告 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
3　各種講座 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

Ⅱ　ボランティアセンター学生スタッフについて

1　ボランティアセンター学生スタッフとは ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19
2　ボランティアセンター学生スタッフ活動記録 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
3　ボランティアセンター学生スタッフ代表からの一言 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44

Ⅲ　学内ボランティア団体への支援について

1　学内ボランティア団体への支援及び紹介 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 45
2　社会貢献を行う学生団体 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48

Ⅳ　広報活動 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 63

Ⅴ　資料 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 65

1　ボランティアセンター紹介記事 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 70

Ⅰ　ボランティアセンターの事業について

１　関西大学ボランティセンターの歩み

２　2021 年度ボランティアセンター事業報告

３　各種講座

2021年度ボランティアセンターの事業について

1　ボランティアセンターの歩み

関西大学　ボランティアセンターの歴史

05年　4月関西大学ボランティアセンター設立
◆大阪府の大学初

06年　学生スタッフによるボランティアコーディネート開始
◆当時はボランティア活動相談コーナーという名称

10年　ボランティアセンター登録者数累計1,000名を突破

11年「第1回　淀川大掃除～みんなの力で輝く淀川～」開催
◆初の試みとして総勢約500名で清掃活動を実施

13年　学生スタッフの活動拠点として「ボランティア・エリア」誕生

15年　ボランティアセンター設立10周年企画事業を展開
◆大阪ボランティア協会常務理事　早瀬昇氏による講演会

16年　関西大学創立130周年記念事業を展開
◆元阪神タイガース赤星憲広氏と山縣文治教授による対談

17年「第1回　大和川大掃除
～力を合わせて大和川に輝きと感動を～」開催
◆総勢約300名で清掃活動を実施

19年　ボランティアセンター登録者数累計5,000名を突破

2005（平成17年）4月1日、大阪府内初の大学ボランティアセンターとして、本学にボランティアセンター事務室が開設されることとなり、学生生活課奨学金担当者が兼務で、開設業務を担当した。当時、「ボランティアセンター」という組織が設置されている大学は希少で、大学業務としては全く未知の分野であった。設立当初は約20名の有志の学生スタッフとともに、手探りながらボランティアセンターの礎を築いた。

2007年から実施をスタートしたボランティア体験ツアー「淀川掃除」は、2011年2月に参加学生が累計1,000名に達した。同年1月には、国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所長から「淀川サポーター」として認定され、関大生にとって手軽にできるボランティアであり、親しみのある活動として定着した。「淀川掃除」10周年を迎えた2017年からは、淀川の水系である琵琶湖にて、外来生物駆除および清掃活動を実施する「琵琶湖ツーリズム！関大生で考える環境ボランティアの未来」を企画し、歴代の学生スタッフの想いを伝承している。

2016年に関西大学は創立130周年を迎えた。20年後の150周年を見据え、長期ビジョン「Kandai Vision 150」が策定され、ボランティアセンターは、新たな目標に「関西大学＝ボランティア」を掲げた。情報機器の普及などにより人と直接的に関わる機会が少なくなりつつある現代において、ボランティア活動を通じてさまざまな人と交流し、多くの価値観に触れ、仲間と協力し何かを成し遂げることは、学生にとって貴重な気づきと成長の機会となる。また、全ての関大生が豊かな人間性を持ち、リーダーシップを発揮して社会に貢献できる学生となるよう、ボランティアセンターは支援活動を広げ、大学の重要な柱となるように上記の目標を掲げた。

大学ボランティアセンターは、社会福祉協議会のように「明確にボランティアをしたいという意思を持った」人が集う場所ではない。ボランティアに関心のない学生が、ボランティアをはじめるきっかけを創る場所としても学生スタッフとともに歩み続ける。

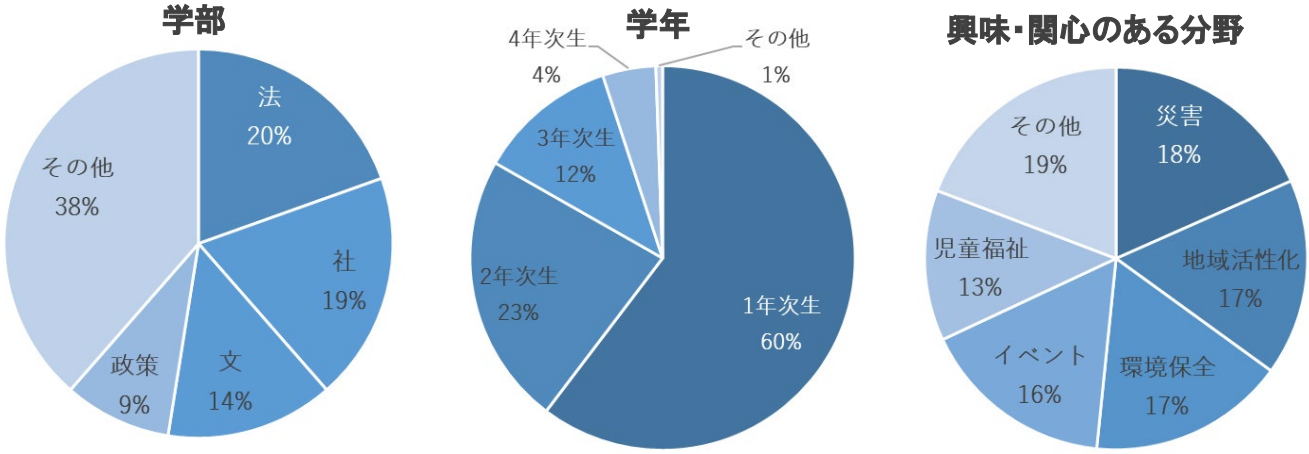
学生スタッフについて

ボランティアセンターには、「ボランティアセンター職員とともにセンターの運営事業に携わり、学生目線から学生のボランティア参加のきっかけ作りを行う」という理念のもと活動する団体がいる。学生スタッフ自らもボランティア活動に参加し、関大生にボランティアの魅力を伝えている。現在 74 名の学生が所属している。

ボランティアセンター登録者数

ボランティアセンターおよびボランティアステーションに、初めて来室した学生に対して、「ボランティアセンター登録用紙」の記入をお願いしている。その際に、メールマガジンの登録や LINE 等 SNS の案内も行っている。新型コロナウイルス感染症拡大の影響により 2021 年度の登録者数は例年より減少したものの、登録者は累計 5,449 名にのぼっている。

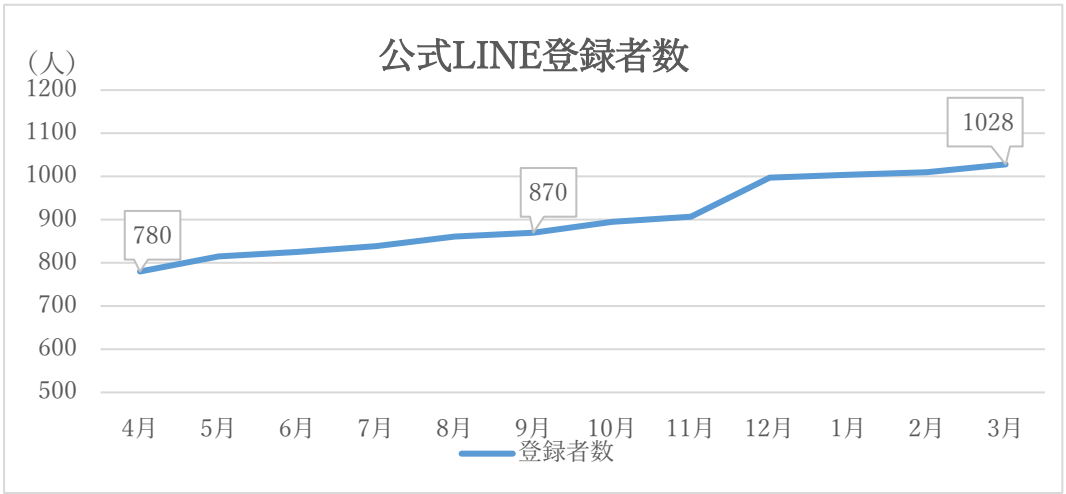
2021 年度ボランティアセンター登録者数 179 名



公式 LINE への登録者数

2019 年 4 月より「ボランティアを広める」ための新しい広報手段として、公式 LINE の運用、Google フォームでのオンライン受付を取り入れ、公式 LINE からボランティアセンター主催事業の参加申込フォームへのアクセスを可能とした。2019 年 6 月からは公式 Instagram の運用もはじめた。

新型コロナウイルス感染症拡大の影響はあったものの、前年度に比べて登録者数は増加し、累計 1028 名（2022 年 3 月 31 日現在）となった。



2　2021 年度ボランティアセンターの事業報告

（1）淀川掃除

2007 年 5 月に、市民団体である「淀川掃除に学ぶ会」の会長から、同会が毎月第 1 日曜日に実施している淀川掃除におけるボランティア募集について協力の依頼があった。同年 8 月に、学生スタッフがボランティアセンター職員と共に活動に参加して以降、関大生に対して行う「ボランティア体験ツアー」と位置づけ、これまで継続して実施している。

2011 年 1 月には、本センター学生スタッフが、国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所長から「淀川サポーター」に認定された。淀川サポーターとは、淀川サポート制度の下、淀川河川事務所が管理する一定区間で活動していること、かつ定期的に環境保全整備活動を行っている団体に対して認定される制度である。また、この認定を受けたことや、本事業が 2011 年度で 5 年目を迎えた記念として、2011 年度から 2016 年度まで本学と連携協定を締結しているミズノ株式会社及び体育会本部等の協力を得て、「淀川大掃除～みんなの力で輝く淀川～」を 300 名規模で 6 回に渡り開催した。その後、大掃除を大和川に移したことから、2017 年度以降は淀川掃除として年２回実施している。

2020 年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により実施できなかったが、2021 年 7 月に、学生スタッフのみの少人数で西中島地区の清掃活動を行った。西中島地区には河川敷公園があり、個人及び団体のボランティアの方々が熱心に取り組まれていることから、ごみが減少傾向にある。そこで、11 月は淀川河川事務所と相談し、行政の対応が追い付いていないより河口の西淀川区福町地区へ清掃場所を変更して実施した。

淀川掃除ボランティアは、関大生にとって、「気軽にできるボランティア」であり親しみのある活動として定着している。2021 年度末で累計約 7,000 名の参加があった。

（2）大和川大掃除

2007 年度から行ってきた淀川掃除と、2011 年度から開催している年 1 回の淀川大掃除、継続的に活動を続けてきたことが実を結び、清掃エリアのゴミは大人数で掃除する必要がないほどにまで減少した。これにより、2017 年度から、ミズノ株式会社及び体育会本部等の協力を得て、大掃除の場所を淀川河川敷から大和川河川敷へと移し、「大和川大掃除」を開催することとなり、2018 年度の参加者は 500 名を超えた。

新型コロナウイルス感染症の影響等の理由で３年ぶりとなった 2021 年度は、当初 300 名規模の計画で進めていたが、新型コロナイルス急拡大に伴い、規模を縮小して約 80 名の参加者が「第３回大和川大掃除」を実施した。

（3）琵琶湖の保全活動

ボランティアセンター開設時より清掃ボランティアに取り組み、多くの関大生が環境について考える場となった「淀川」の源流が琵琶湖である。この他、芥川（高槻市）での掃除やアユの産卵場整備、特定外来生物ミズヒマワリ駆除活動など、琵琶湖を源流とする淀川水系で多様なボランティア活動を展開してきたことから、2017 年度に「認定 NPO 法人びわこ豊穣の郷」（以下、「豊穣の郷」という。）が取り組んでいる特定外来生物「オオバナミズキンバイ」の駆除活動に参加し、また、2018 年度には、琵琶湖赤野井湾湖岸の清掃を実施することにより、淀川と関わりが深い琵琶湖で環境問題を学ぶこととした。

「オオバナミズキンバイ」は、生息域を急速に拡大し、放っておくと淀川水系全域に広がる恐れがある水陸両生の水草で、茎や葉の断片からも再生する。手作業で根や茎をできるだけ残さないように駆除作業をする必要があることから、より多くのボランティアの力が求められている。

▸琵琶湖ツーリズム！大学生が考える環境ボランティアの未来
～滋賀県琵琶湖岸での特定外来生物駆除活動及び清掃活動～

公益財団法人電通育英会（以下、「電通育英会」という。）に 2020 年度の助成事業に採択された、「琵琶湖の生態系を守るために、『オオバナミズキンバイ』の駆除活動及び清掃活動を行い、関西大学、法政大学、明治大学の学生が共同し、理論と実践から環境保全活動の未来を考える。」をテーマとする活動は、2020 年度末までに本学が主催する３大学連携事業として実施する予定であった。

しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により予定の対面活動が実施できなかったことから、電通育英会の了承を得て 2021 年度に繰り延べたものである。コロナ禍のなか、何度も計画の変更や修正を余儀なくされたが、感染症対策を講じつつようやく対面での実践活動を行うことできた。助成事業の所期の計画を達成し、また、コロナ禍に対応できるリーダーの育成を図ることができた。

事業名	開催日	時間	内容	講師	本学ボランティア 学生数 行事参加者数	場所
びわ湖を美しくする運動	7/1 （木）	9:00～ 10:30	・オオバナミズキンバイ及びナガエツルノゲイトウの駆除 ・関係者への取材		4 名 （7名）	大津市なぎさ公園
琵琶湖岸の掃除及び琵琶湖博物館見学	8/22 （日）	10:30～ 15:00	琵琶湖博物館見学・現地の確認		5 名 （7名）	滋賀県立琵琶湖博物館
3大学連携オンライン講座 「琵琶湖の環境保全－琵琶湖ツーリズム！大学生で考える環境ボランティアの未来－」	9/15 （水）	13:00～ 15:00	テーマ「琵琶湖の環境保全」 ・特定外来生物「オオバナミズキンバイ」について ・法政大学・明治大学学生との交流	滋賀県琵琶湖環境部 事前環境保全課 滋賀県立琵琶湖博物館専門学芸員 中井 克樹 氏	19 名 （52 名）	オンライン（Zoom）
事前交流会	11/1 （月）	15:00～ 16:30	参加者への当日活動の説明、交流		16 名 （20 名）	オンライン（Zoom）
琵琶湖ツーリズム！ ～大学生で考える環境ボランティアの未来実践編～	11/14 （日）	7:30～ 18:00	オオバナミズキンバイの駆除活動		29 名 （41 名）	滋賀県近江八幡市北津田町 ヨシ植栽地
琵琶湖ツーリズム！ ～大学生で考える環境ボランティアの未来実践編2～赤野井湾清掃講演会・事前説明会	2/17 （木）	10:40～ 12:10	・琵琶湖の環境保全に係る講演 ・当日の清掃活動の説明	認定NPO 法人 びわこ豊穣の郷 金﨑 いよ子 氏	13 名 （15 名）	オンライン（Zoom）
琵琶湖ツーリズム！ ～大学生で考える環境ボランティアの未来実践編2～赤野井湾清掃	2/25 （金）	10:00～ 14:30	・赤野井湾での清掃活動 ・琵琶湖博物館の見学		16 名 （18 名）	滋賀県守山市赤野井湾湖岸、滋賀県立琵琶湖博物館

（4）奈良県明日香村との地域連携事業

明日香村は、数々の日本の歴史的遺産を保有する地域である。1972 年の高松塚古墳の発掘調査は、本学の故 網干名誉教授（明日香村名誉村民）の指揮のもと行われ、石室、壁画の発見をはじめとして、本学が明日香村と長きにわたり親密な関係を築く土台となった。2006 年に、改めて締結した「明日香村と関西大学との地域連携に関する協定」に基づき、継続的な事業として連携を深めている。

▸飛鳥光の回廊

明日香村が毎年開催している「飛鳥光の回廊」には、2011 年度から連携事業の一環として参加しており、本学地域連携センターを通じて、当センターへ学生ボランティアの協力依頼がある。

しかしながら、前年度に引き続いて、2021 年度も新型コロナウイルス感染症拡大防止のため参加を中止した。

▸飛鳥川の一斉清掃

前年度に引き続いて 2021 年度も、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。

▸飛鳥ハーフマラソン

明日香村が開催した第 1 回飛鳥ハーフマラソンに、給水ボランティアとして参加した。

（5）NPO 法人 花と緑のまちづくり 高槻景観園芸クラブとの連携事業

▸高槻花植えボランティア

当該団体は、JR 高槻駅～市役所周辺、阪急高槻駅～城跡公園へ至る街路、城跡公園内の花壇の植栽を行っており、高槻市内の緑化重点地区を中心に花と緑で街を彩り、景観の向上に繋がる活動をしている。高槻市からの依頼を受け、2017 年度から本センターもこの事業に参加している。2021 年度は体験ツアー「高槻景観美化ボランティア」の名のもと実施した。

（6）吹田市との連携事業

▸吹田くわい収穫ボランティア

2018 年度に初めて、吹田市から依頼を受けてから以降、西農園のご協力のもと、吹田市の特産物である「吹田くわい」の植え付け、除草、収穫のお手伝いを行っている。

2021 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により 6 月の植え付けのお手伝いはできなかったが、11 月の除草及び 12 月の収穫のお手伝いに参加した。

（7）市民団体「新川姫蛍と花を守る会」との連携事業

▸ヒメボタル観賞会

2011 年 1 月に、学生スタッフが国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所主催の「淀川サポート制度意見交換会」に出席した際に、高槻市市民団体「新川姫蛍と花を守る会」の代表より声をかけていただいたことをきっかけに、連携が始まった。

当該団体は、高槻市の新川に生息する姫蛍の保護活動を中心に活動している。姫蛍は大阪府で絶滅危惧種に指定されていることから、毎年「蛍の観賞会」を開催し、観賞者に対して啓発チラシを配布し、環境問題について考えてもらう機会としている。2021 年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった。

（8）大阪家庭裁判所との連携事業

大阪家庭裁判所において行われている、「試験観察中の非行少年への学習指導」ボランティアプログラムである。当活動は開始から 16 年目を迎え、活動の意義を考えると、学生にとっても真摯に取り組むインセンティブとなっており、家庭裁判所調査官と大阪家庭少年友の会の両者によって学生たちが活動しやすいように、様々な工夫を検討していただいている。2020 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため学生ボランティアの募集を行わなかったが、2021 年度は募集を再開し、新規 4 名及び継続 2 名の合計 6 名の登録があり、活動を行った。

年度	登録者数
2006 年度	9 名
2007 年度	16 名
2008 年度	14 名
2009 年度	17 名
2010 年度	14 名
2011 年度	19 名
2012 年度	16 名
2013 年度	17 名
2014 年度	15 名
2015 年度	15 名
2016 年度	13 名
2017 年度	19 名
2018 年度	28 名
2019 年度	20 名
2020 年度	0 名
2021 年度	6 名

＜学生募集及びボランティア登録・実施の過程＞

（1）ボランティアセンターが法学部（刑事法、親族・相続法など裁判所関連）、社会学部（心理学関連）、政策創造学部（刑法、刑事政策）、大学院心理学研究科などの教員へ協力依頼を行う。
（2）教員の推薦を受けた学生のみ、登録手続きに進む。
（3）登録した学生に対して、大阪家庭裁判所調査官等による研修を実施する。
（4）少年の都合に合わせた活動計画を、調査官と相談する。

＜研修・施設見学などの実施結果＞

6 月 3 日（木）	8 月 26 日（木）	3 月 9 日（水）
オリエンテーション	情報交換会	活動報告会
ホテルプリムローズ大阪 3 階 高砂の間	オンライン（Zoom）	オンライン（Zoom）
ボランティア参加者数 5 名 行事参加者数 23 名	ボランティア参加者数 4 名 行事参加者数 7 名	ボランティア参加者数 3 名 行事参加者数 20 名
調査官からの試験観察制度・少年審判・学習指導についての説明を受け、質疑応答を行った。	学習指導実績のある学生から実際の活動例と工夫を紹介し、質疑応答を行った。	今年度、学習指導実績のある学生から少年の活動実績と感想を述べ合い、調査官を交えて意見交換を行った。

＜学習指導を行った学生ボランティアの感想＞

〇指導回数：4 回（高 2 担当）

少年はおとなしい性格だったため、最初はコミュニケーションをとることが難しかったが、世間話などをすることで、心理的距離を縮めることができるように努力しました。少年は暗記が苦手で、プリントを解いていても分からなければすぐに解答集から答えを見ていました。学習指導中は解答集を預かり、分からない問題があった場合は教科書から答えを探すなど最後まで自分の力で解けるようにすることを普段から習慣付けをできるよう意識して学習指導を行いました。また、少年は大学受験を希望していたので、学習指導の合間に少年が志望する学部の話をしました。進んで勉強を行う少年だったので、頑張っている姿をみて、自分自身ももっと頑張ろうと影響を受けました。

〇指導回数：6 回（中 2 担当）

少年は、最初は人見知りの印象を受けましたが、お互いが自己紹介を行う中で、好きな漫画やゲームが一緒という共通点を見つけ、打ち解けることができました。

また、お互いの名前を教えることができないため、1 回目にどのような名前で呼び合うのかを決めました。

学習指導は、少年の学校のプリント等を使用して行ったため、ペアワークなどはできるだけ学校と同じ環境でできるように心がけ、少年の学習指導に対するモチベーションが下がらないように工夫しました。少年は最初、プリントのどこからどう答えを導き出したらいいのか分からなかった様子でしたが、学習指導を通して教科書の中から自分自身で答えを探すようになりました。

〇指導回数：4 回（中 3 担当）

少年に対してやんちゃなイメージがあったので、最初は緊張しましたが、4 回の学習指導を通して打ち解けることができました。

1 回目の学習指導では、少年がどのくらい勉強に対して理解しているか分からなかったので、中学 1 年生から 3 年生の教科書を図書館で借りて、学習指導を行いました。

少年はあまり集中力がなかったため、学習指導だけではなく、少年が志望する高校ついて具体的なイメージを持ってもらえるような話などをしました。自分自身、今まで将来について漠然と考えていましたが、今回の学習指導を通して、将来の職業像が見つかりとてもためになりました。

＜家庭裁判所調査官からのコメント＞

〇指導回数：4 回（高 2）のケース

少年が大学受験を希望していたため、学習指導と合わせて、大学生活やアルバイトなどの話についても差し支えない範囲で話をしてくれてよかったです。会話の糸口をつかむために工夫をしながら関わってくれました。少年も、毎回自分で考えて教えてほしい学校の課題などを持ってくるなど、学習指導を楽しみにしていたと思います。コロナ禍で 1 対 1 の関わりが減っている中で、繋がりをもてたことがとてもよかったと思います。

〇指導回数：6 回（中 2）のケース

少年は勉強への苦手意識が強かったが、学習指導を通して勉強への敷居が下がり、自宅学習も行うようになりました。また、少年は人間関係が希薄でしたが、幼馴染と会うようになったり、だんだんと学校にも登校できるようにもなりました。

今回、勉強への興味を持てるようになること、人間関係や社会へのつながりについて知ることを目的とした学習指導をお願いしていました。学生ボランティアにわかりやすく勉強を教えてもらい、人との関わり方も教えてもらい、少年にとって前向きな変化がありました。

〇指導回数：4 回（中 3）のケース

少年は、学校の先生との関係が上手くいかず大人への不信感がありました。

高校に進学したい気持ちはあるものの、学校では 45 分の授業の間、座っていることができず集中力にかける部分がありました。最初は、学習指導に対して気が進んでいませんでしたが、学生ボランティアと会っていく中で、不安もなくなり楽しく学習ができるようになり、1 対 1 の学習指導の 45 分間は集中して勉強することができるようになりました。少年は無事、志望校に合格しました。

＜家庭裁判所調査官からの総括コメント＞

〇橋本調査官から総括コメント

少年にとって学習指導は勉強を教えてもらうだけでなく、人と人との繋がりを得られる機会です。人との繋がりに問題がある少年が多く、どういう働きかけをすればよいのか難しい現状があります。少年たちにとっては、周りの人からの影響が大きく、大学生との交流は貴重な経験となります。皆さんにとっては大学に進学することは当たり前かもしれませんが、少年にとっては当たり前ではありません。少年のことを想い、寄り添ってくれる人がいるということに意味があり、学習指導を通して、短い機会であっても一期一会の良い人間関係を築くことができたことはよかったと思います。

今回の報告を聞いていて、少年だけでなく学生ボランティアの皆さんも学びに繋り、今後、この学習指導の経験を生かしてもらえればと思います。

※文中で女子を「少年」と表記しているが、例えば少年法では「満 20 歳に満たない者」を指し、児童福祉法では「小学校就学から満 18 歳に達するまでの者」を指す。いずれも男子と女子を含んでいう。

（9）堺市との地域連携事業におけるボランティア活動（事務局：堺キャンパス事務局）

堺キャンパスのある堺市と関西大学は、2008 年に基本協定を締結しており、大学の教育研究活動と地域資源を融合した連携事業を実施している。その中で人間健康学部の学生は、堺市の小中学校に出向き、児童生徒の運動促進を図る取り組みへの協力や、地域の子どもたちを対象としたスポーツ企画の運営など、ボランティア活動を通して講義だけでは学べない経験を積み、社会人基礎力を養っている。また、関西大学が取り組む教育研究活動の成果を社会に還元し、地域が抱える諸課題の解決に寄与している。

［新しい遊びの場］

2021 年度は、ボランティアとして以下の事業に参加した。

事業名	開催日	時間	内容	講師	ボランティア学生数（行事参加者数）	会場
住吉祭神輿渡御ボランティア 2021	8/1（日）※	－	住吉祭神輿渡御ボランティア	－	－	－
堺市民対象 ソフトボールスクール	※	－	支援学級中学生 ソフトボール交流教室	関西大学 人間健康学部教授 河端　隆志 関西大学　体育会 ソフトボール部監督 吉末　和也	－	－
			女子中学生対象 ソフトボール教室			
人間健康学部 学生ボランティアネットワーク	実施なし					
社会的養護の普及・啓発および社会的養護下にある子どもの自立支援事業	※	－	・スポーツ教室 ・スポーツ交流事業	－	－	－
かんだい食堂	4/3（土）	17:00～19:30	かんだい食堂 あさかやま夜桜祭	－	14名（38名）	関西大学堺キャンパス 食堂前広場、エバーグリーン
	7/28（水）	11:30～15:00	かんだい食堂 流しそうめん企画		28名（19名）	関西大学堺キャンパス 食堂・Cafeteria Port、エバーグリーン
	11/11（木）	16:00～18:00	かんだい食堂 おかしなフェスティバル ～1111本の奇跡～		26名（38名）	
	12/24（金）	16:00～17:30	かんだい食堂 サンタさんからの贈り物		8名（43名）	関西大学堺キャンパス 食堂前広場
	10/20（水）	12:00～13:00	学生向けおすそわけ食 マーケット		150食	
	11/24（水）					
香ヶ丘商店街を中心とした浅香山地区のまちづくり	4/4（日）	10:00～12:00	スポーツ教室 小学生のための 新しいあそびの場	関西大学 人間健康学部教授 村川　治彦	9名（17名）	関西大学堺キャンパス 体育館アリーナ
	5/23（日）※	－			－	－
	6/27（日）	14:00～16:00			7名（11名）	関西大学堺キャンパス 体育館アリーナ
	7/11（日）	10:00～12:00			13名（13名）	
	7/18（日）				7名（19名）	
	8/6（金）※	－			－	－
	8/29（日）※					
	9/12（日）※					
	9/26（日）※					
	10/10（日）※					

事業名	開催日	時間	内容	講師	ボランティア学生数 （行事参加者数）	会場
香ヶ丘商店街を中心とした 浅香山地区のまちづくり	10/16 （土）	10:00～ 12:00	スポーツ教室 小学生のための 新しいあそびの場	関西大学 人間健康学部教授 村川　治彦	5名 （8名）	関西大学堺キャンパス 格技・実習教室
	10/18 （月）	15:00～ 17:00			10名 （6名）	関西大学堺キャンパス 体育館アリーナ
	10/31 （日）	10:00～ 12:00			11名 （19名）	関西大学堺キャンパス 体育館アリーナ
	11/14 （日）				14名 （14名）	
	11/20 （土）				10名 （10名）	関西大学堺キャンパス 格技・実習教室
	11/27 （土）				8名 （11名）	関西大学堺キャンパス 体育館アリーナ
	12/11 （土）※	－			－	－
	12/18 （土）	10:00～ 12:00			6名 （14名）	関西大学堺キャンパス 格技・実習教室
	1/16 （日）	10:00～ 12:00			8名 （22名）	関西大学堺キャンパス 体育館アリーナ
	1/30 （日）※	－			－	－
	6/21 （月）	13:00～ 16:00	浅香山地区防災活動 防災指導士研修		25名	関西大学堺キャンパス 多目的室B
	7/18 （日）	13:30～ 16:30			26名	
	8/7 （土）※	－			－	－
	6/27 （日）	10:00～ 12:00	浅香山地区防災活動 防災研修		25名 （85名）	関西大学堺キャンパス 体育館アリーナ、多目的 室B
	7/18 （日）	13:00～ 16:00	浅香山地区防災活動 防災縁日		21名 （47名）	関西大学堺キャンパス 体育館アリーナ
	10/30 （土）	15:00～ 16:00	浅香山ハロウィンフェスタ 2021		70名 （約1,200名）	堺市堺区香ヶ丘町 1丁近辺
	10月～1 月の期 間に44日 間開放	－	学習支援 浅香山学童ルーム		－	浅香山商店街 NPO法人Kokoima レンタルスペース
	2/13 （日）※	－	堺コレクション アップサイクル ファッションショー		－	－
「新しい生活様式」と食、農、 自然を軸にした地域づくり	7/30 （金）	10:00～ 16:00	農業研修	関西大学 人間健康学部教授 村川　治彦	7名	とようけのもり
	8/5 （木）※	－			－	－
	8/6 （金）※					
	10/7 （木）	12:30～ 17:00			5名	とようけのもり
	10/22 （金）	10:30～ 15:00			9名	
	10/28 （木）	10:30～ 17:00				
	11/11 （木）	10:00～ 16:00			5名	
	12/3 （金）	10:30～ 17:00			4名	
	12/9 （木）	10:30～ 15:00			7名	
	12/13 （月）				4名	
	12/20 （月）	10:30～ 17:00			9名	
	1/14 （金）	10:30～ 15:00			5名	
	1/21 （金）					
	1/27 （木）				4名	

事業名	開催日	時間	内容	講師	ボランティア学生数（行事参加者数）	会場
「新しい生活様式」と食、農、自然を軸にした地域づくり	2/28（月）	10:30～17:00	農業研修	関西大学 人間健康学部教授 村川　治彦	7名	とようけのもり
	3/3（木）	10:00～16:00			5名	
	10/23（土）	10:00～16:00	Kokoima農園サツマイモ収穫		7名	岐阜県揖斐郡池田町片山
	11/2（火）～11/3（水）	1泊2日	子どもエコ体験プログラムの準備		4名	熊野出会いの里
堺市（博物館）×関西大学によるミュージアムグッズの企画提案	1/13（木）	13:00～15:00	企画会議	関西大学 人間健康学部教授 岡田　忠克	16名	堺市博物館
	2/4（金）	8:30～16:30	現地フィールドワーク		3名	
	2/5（土）				2名	
	2/18（金）	10:00～13:00	ミュージアムグッズプレゼン・グッズ選定会議		30名（7名）	Zoom開催
学生による自主防災組織の創設	※	－	・自主防災組織の中核となる学生の資格取得 ・堺防災アープロジェクトの推進	－	－	－
	1/15（土）	10:00～16:00	堺区「親子防災キャンプ」プログラム 災害時に役立つサバイバル力をキャンプに参加して身につけよう！	関西大学 人間健康学部教授 安田　忠典	9名（50名）	堺市堺区東湊町2丁119-1（元湊小学校）
	1/23（日）※	－	地域防災活動 浅香山校区・三宝校区　親子防災体験ツアー	－	－	－
堺キャンパスを拠点とした新たな地域創生の提案	8/27（金）	10:00～12:00	事業打合せ	関西大学 人間健康学部教授 村川　治彦	9名（7名）	堺キャンパス ラーニング・コモンズ、キャンパス菜園
	11月～3月	－	屋台制作	－	14名	堺キャンパス、千里山キャンパス
	11/23（火・祝）	11:00～14:00	ストリートファッションショー	－	35名	堺市堺区浅香山商店街
令和3(2021)年度 体力向上推進事業	4月～3月	－	「体力向上スクールサポーター」として、体育学習や部活動におけるサポート、休み時間や放課後等の時間における児童生徒の運動促進を図る取組みをサポート	－	1名	堺市立上深井小学校
					1名	堺市立鳳南小学校
					1名	堺市立宮山台小学校
					1名	堺市立五箇荘東小学校
					1名	堺市立鳳中学校
日中姉妹都市交流による大学生グローバル・リーダーの育成	11/5（金）	13:30～15:10北京時間	教員同士の初顔合わせと今後の打合せ	関西大学 外国語学部教授 吉田　信介	32名	オンライン開催
	11/12（金）		両学生による自己紹介、両国の大学・都市・文化の紹介			
	11/26（金）		両学生による伝統文化の紹介（折り紙、切り紙）			
	12/10（金）		両学生による民話・妖怪・物語の紹介（孫悟空、雪女、海坊主）			
	12/24（金）		学生同士の自由交流会、教員によるまとめ			
	9月～	－	講演会「右が左で左が右で-言葉の背景にあるもの」		－	
	3/7(月)～		講演会「東アジアにおける近代語彙の形成と交流」			

（注）開催日に※を付したものは、新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となったもの。

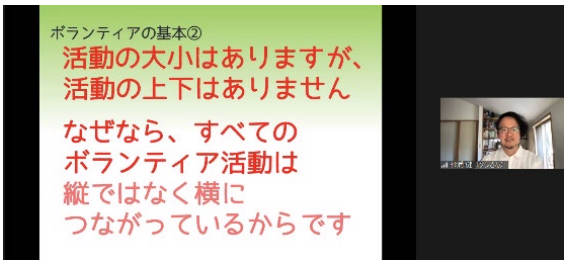
2010 年度から開始した関西大学と堺市との地域連携は、本学の地域貢献協力資金により運営しており、2021 年度で 12 年目を迎えた。

3　各種講座

(1)　ボランティアセミナー2021

ボランティアに関心のある学生やボランティアに参加したことがない学生に対して、活動のやりがいや楽しさを伝え、活動に対する不安や疑問を解消させることで、ボランティア活動への参加を促すこと、また、学生がボランティアセンターを気軽に利用できるように、ボランティアセンターで受けられるサービス等の紹介を行うことを目的に開講した。

講師からは、ボランティアの種類、活動内容などについて、幅広くお話しいただいた。また、質疑応答を通して、ボランティア活動に対する考えを深めた。



［杉浦先生 講義の様子］

日　　時	4 月 27 日（火）14 時 40 分～16 時 10 分
場　　所	オンライン（Zoom）
講　　師	社会福祉法人 大阪ボランティア協会／共働プラットホーム　杉浦 健 氏
受 講 者 数	5 名

---- 【受講者の声】 ----------

●大学生になったら、社会貢献につながるような活動をしてみたいと考えていました。このセミナーに参加して、関西大学ではボランティア活動が活発に行われていることがわかったので、一度ボランティアセンターに行って、私にもできるボランティアがあるか相談してみようと思いました。（社会学部・1 年次生）

●ボランティアについての考え方、どんなボランティアがあるのかなどの話が聞けてよかったです。まずは、一歩前に踏み出してみることが大事だということがわかりました。（文学部・3 年次生）

---

(2)　オンラインボランティア紹介

新型コロナウイルス感染症が拡大し、収束が見込めないなか、新しい一歩を踏み出したい本学学生に向けて、コロナ禍でも参加できるボランティア活動をオンラインで紹介した。

本イベントでは、ボランティア活動を行う前に、実際に実施したボランティア体験ツアーの写真をもとに、「ボランティアとは何か」、また、コロナ禍でボランティア活動を行うにあたって気をつけなければならないことを話した。

そのうえで、本学の課外活動の取り扱い上、十分な感染症対策が講じられていると判断したボランティア活動や、オンラインで活動できるボランティア活動の紹介を行った。

最後に、現役の学生スタッフから、ボランティア活動に興味のある関大生に向けたメッセージを動画で紹介し、実際にボランティア活動を行っている学生の声として感じてもらうことができた。

日　　時	7 月 7 日（水）①12 時 20 分～12 時 50 分 ②14 時 40 分～15 時 10 分 ③16 時 20 分～16 時 50 分
場　　所	オンライン（Zoom） （希望者のみ千里山キャンパス凜風館 1 階ピアエリアにて受講）
登 壇 者	ボランティア活動支援グループ職員 ボランティアセンター学生スタッフ 4 名
受 講 者 数	35 名（①21 名 ②6 名 ③8 名）

【受講者の声】

●コロナ禍においても様々なボランティア活動が行われていることを知り、社会に貢献するだけでなく、人との繋がりが深まるボランティアの良さがよく分かりました。
（システム理工学部・1 年次生）

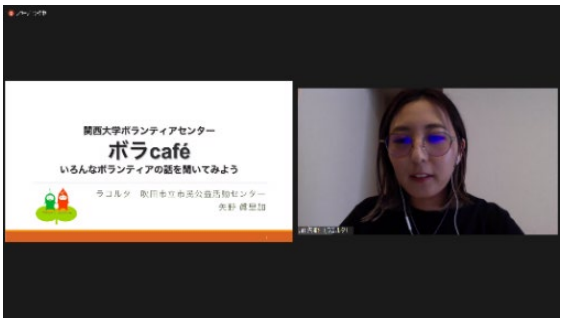
●ボランティアに興味はあるものの、コロナを理由に行動してこなかったが、ボランティアセンターに行こうという気持ちになった。（政策創造学部・2 年次生）

●ボランティアの定義から、実際のボランティア募集内容まで説明もあり、わかりやすい内容でした。（環境都市工学部・1 年次生）

(3)　テーマ別講座　ボラ café

ボランティア活動は多岐にわたるが、その背景にある社会問題等について深く知らないという学生は少なくないと思われる。そこで、平日の昼休みに本セミナーを実施することで、気軽に関心のある内容を学べる機会を創出することを目的として開講した。

第 1 回では、「いろいろなボランティアの話を聞いてみよう」をテーマに、「ボランティアとは」という基本的な話からボランティア活動に関わる仕事をされている講師が今までにどのようなボランティア活動を経験し、現在の職業についたかなどの話があった。第 2 回では、「献血ボランティアについて」をテーマに、献血に参加する方法など具体的な話があった。各回、講師から興味深い話をしていただき、受講学生の今後のボランティア活動につながる講座となった。



［第 1 回　ラコルタ講義の様子］

［第 2 回　大阪府赤十字血液センター講義の様子］

日　　時	第 1 回　10 月 5 日（火）12 時 20 分～12 時 50 分 第 2 回　10 月 6 日（水）12 時 20 分～12 時 50 分
場　　所	オンライン（Zoom）
講　　師	第 1 回　ラコルタ（吹田市立市民公益活動センター） 第 2 回　大阪府赤十字血液センター
受 講 者 数	第 1 回　12 名 第 2 回　16 名

【受講者の声】

●自分がもっていたボランティアのイメージと、同じところもあれば違うところもあったので、実際に話を聞けてよかったです。（社会学部・2 年次生）

●梅田などで献血の車を見たことがあったのですが、参加しようとは思っていませんでした。しかし、献血の人数が少なくなってきているという事実を知り、大学で献血の機会があれば参加してみようと思いました。（商学部・2 年次生）

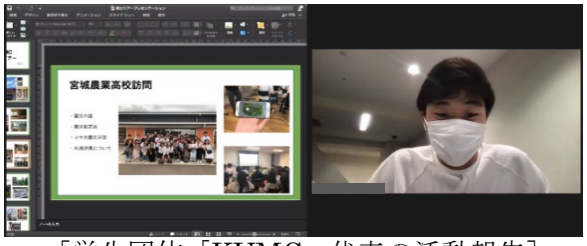
(4)　災害ボランティアガイダンス 2021

コロナ禍で実際に被災地で活動を行うことはできないものの、学生の災害ボランティア活動に対する意識を高め、実際のボランティア経験を聞くことで、今後学生がより良い意思決定ができるように支援することを目的として開講した。

講演では、実際に災害ボランティアに参加されたときの写真や、災害ボランティア活動に参加するために必要な準備物も紹介され、参加者が現地の状況をイメージしやすい講演であった。また、災害ボランティア活動は、一般的によく聞くがれき撤去だけではなく、現地にある災害ボランティアセンターの運営や補助等、いろいろな災害ボランティア活動の形があることを紹介していただいた。現地での活動に参加することに抵抗を感じている学生にとっても興味が持てる内容であった。

また、KUMC からは、2019 年度以前に行った「東北ツアー」について発表があった。大学生が実際に活動した災害ボランティア活動として、参加者の意欲に繋がる機会となった。

［紺屋先生 講義の様子］



［学生団体「KUMC」代表の活動報告］

日　　時	10 月 13 日（水）16 時 20 分～17 時 50 分
場　　所	オンライン（Zoom）
講　　師	社会福祉法人 大阪ボランティア協会　紺屋 仁志 氏
受 講 者 数	8 名

【受講者の声】

●参加方法や持ち物だけではなく、ボランティアを行う際に気を付けるポイントを知り、有意義な時間だった。（社会学部・2 年次生）

●実際に参加している人からの説明を聞いてとても有意義なものになりました。私もボランティアに参加したいと思いました。（社会学部・1 年次生）

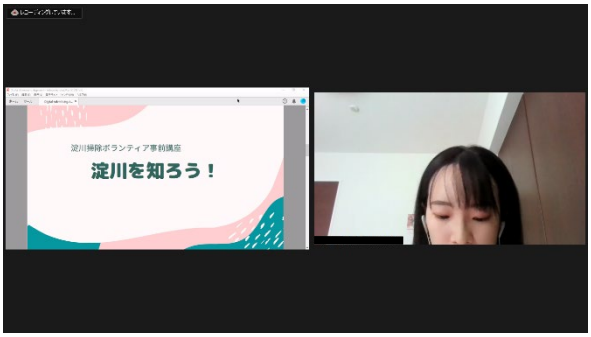
●災害ボランティアの内容や注意点について詳しくお話を聞く事ができて良かったです。今後ボランティアに参加する時には今回学んだことを活かしたいと思います。（文学部・2 年次生）

(5)　淀川掃除事前講座「淀川を知ろう！」

11 月に実施する淀川掃除の事前講座として、淀川の環境保全や淀川河川公園事業などについて事前に学ぶことで、自分たちの清掃活動が環境にどのような影響があるのか考えながら活動できるようになることを目的として実施した。

当日は、淀川河川事務所河川公園課の職員の方に来ていただき「淀川について」という基本的なところから、淀川の環境に関する取り組みとして特定外来生物のお話、また、淀川掃除の活動場所である河川公園とはどのような場所なのかをデータを用いてお話いただいた。

［講義中の様子］



［学生スタッフ　司会の様子］

日　　時	11 月 17 日（水）13 時 00 分～14 時 30 分
場　　所	オンライン（Zoom）
講　　師	淀川河川事務所 河川公園課 課長　藤井 厚企 氏
受 講 者 数	13 名

【受講者の声】

●一口に公園整備事業といっても、自然環境保全やその環境を利用者に知ってもらえるような活動を行うなど、様々な取り組みがなされている事を知りました。　（文学部・4 年次生）

●淀川の事業がこんなに発達しているとは思わなかったです。もっと注目しようと思いました。
（システム理工学部・3 年次生）

(6)　テーマ別講座　ディズニー映画から考える価値観の違う人間関係

ディズニーアニメについては、登場するプリンセスの行動分析から見えてくるジェンダー問題、ヴィラン（悪役）分析による人種や民族差別などの問題、社会的課題や価値観の変遷など様々なアプローチで、文化的な研究がさかんに行われている。

ボランティア活動は多岐にわたるが、その背景にある社会問題等について深く知らないという学生は少なくないと思われる。そこで本講座では、ボランティア活動において、老若男女問わず幅広い年代の方と関わる機会があることから、価値観の異なる人との人間関係構築のヒントを学べる機会を創出することを目的として実施した。

ディズニーアニメに描かれた人間関係から、トラウマの克服や価値観の違う人との対話について、一緒に考える機会となった。

［芝崎先生　講義の様子］

日　　時	12 月 14 日（火）16 時 20 分～17 時 50 分
場　　所	千里山キャンパス第 4 学舎 3202 教室／オンライン（Zoom）
講　　師	創作サポートセンター 代表　芝崎 美世子 氏
受 講 者 数	18 名（Zoom10 名・学内受講者 8 名）

【受講者の声】

●人生で一回は小説や物語を書いてみたいという気持ちがあるのですが、今回の講座で質問した、これからのディズニーの物語がどうなっていくか、世間の傾向も知ることができました。

（商学部・1 年次生）

●今まで自分が考えてみたことのない視点からの発見があり、面白かったです。

（社会学部・1 年次生）

Ⅱ　ボランティアセンター学生スタッフについて

1　ボランティアセンター学生スタッフとは

2　ボランティアセンター学生スタッフ活動記録

3　学生スタッフ代表からの一言

1　学生スタッフについて

(1)　ボランティアセンター学生スタッフの活動

▸学生スタッフによるボランティアの情報紹介
（オンライン・ボランティアコーディネート）

本学学生の「ボランティアって何だろう？」という疑問や、「こんなボランティアをしてみたい！」などのボランティアに関する相談に、学生スタッフが対応している。

2020 年度秋学期からは、Zoom を活用したオンライン・ボランティアコーディネートを開始し、2021 年度春学期からは中断したものの、秋学期からは、本センターホームページから友人と一緒に日時の予約ができるようになった。

▸ボランティア体験ツアーの企画・運営

初めてボランティア活動に参加する本学学生が、気軽に一歩踏み出せるように、関大生同士で活動するボランティア活動を企画・運営している。

［ホームページより予約］

［オンライン・コーディネートの様子］

(2)　ボランティアセンターと学生スタッフ幹部及び役職者とのミーティング

学生スタッフの代表・副代表で構成する幹部と職員が、定期的にミーティングの時間を設け、情報共有や意見交換を行っている。企画準備の進捗状況や団体運営についての相談が中心ではあるが、職員と学生スタッフのコミュニケーションの場にもなっている。職員が代表者と話し合うことで、その時々の学生スタッフ全体の強みや弱みを知り、団体として成長していけるような支援に繋げている。

また、学生スタッフは、幹部・会計担当・ボラ団担当といった役職を担う学生間での情報共有の場として機能するように、職員を交えて役職者とのミーティングを隔週 1 回行っている。

いずれも Zoom を活用したオンラインでのミーティングとしている。

(3) 広報活動

学生スタッフは、ボランティア体験ツアー前に、学生スタッフが作成したボランティアセンターに関するチラシを関西大学構内にて配布する等、本学学生にボランティアを始めるきっかけとなるよう広報活動を積極的に行っている。また、このほかに、学生スタッフが運用しているTwitterの更新に加え、ボランティア体験ツアー実施後に、写真を交えて活動内容を掲載する「ぼらぼらblog」の更新も行っている。例年、ボラリーWEEKとして、凜風館入口や食堂、凜風館前などで作成した「Volury」を学生スタッフが配布していた。機関紙として年に3回「Volury」を発行しているが、2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響により、作成及び配布を行わなかった。

(4) 新入生に向けた広報活動

新入生を対象にボランティアセンターの認知度を高めることで、ボランティアをより身近なものに感じてもらうことを目的に、新入生歓迎行事で広報活動を行い、新たな学生スタッフの勧誘を行っている。2021年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、例年に比べて規模を縮小した形での実施となった。

▸新入生歓迎行事

日　　時	4月2日（金）・3日（土）11時00分～14時00分
場　　所	千里山キャンパス凜風館1階横（悠久の庭前）
内　　容	ボランティアや学生スタッフの活動に興味を持った新入生に対して、ボランティア情報や活動内容の紹介を行った。

▸ピア×ボラ 秋！オンライン新歓

日　　時	10月7日（木）・8日（金）12時20分～12時50分
場　　所	オンライン（Zoom）
内　　容	ボランティア活動及びピア・サポート活動紹介 ボランティアセンター学生スタッフ及びピア・コミュニティ活動紹介 対談

また、例年は、学生スタッフを含む学内のボランティア団体との合同イベントであるボランティアフェスティバルを行っている。2021年度は対面での実施が難しかったため、新入生にボランティア団体の活動紹介をすることで、団体のことを知ってもらうとともに、本学におけるボランティアの多様性や、ボランティアの親しみやすさなどを知ってほしいという学生の思いを込めて、ピア・サポート活動を行うピア・コミュニティの学生とコラボレーションしたオンラインイベントを、Zoomを活用して実施した。

2021年度は、各学部でのボランティアガイダンスが実施できなかったことから、本センターホームページにガイダンス動画を掲載し、また、オンラインを活用した学内ボランティア団体とのイベントやボランティア紹介など、新入生にボランティア活動に知ってもらうような広報を行った。

(5)　新スタッフガイダンス

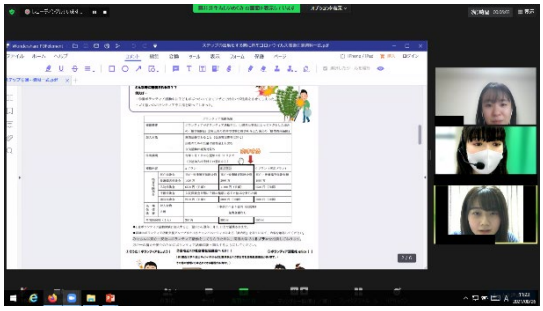
本センターホームページから新スタッフへのエントリーを行った学生スタッフを希望する学生に対して、職員から 90 分程度のガイダンスを行っている。そこでは、ボランティアセンター（ボランティア活動支援グループ）の位置づけ、クラブ・サークルとの違い、大学からの支援について、自分たちがボランティア活動に参加するだけの団体ではなく、ボランティアの魅力を発信する団体であることなどを中心に、ボランティアに関する諸注意や学生団体の運営についてのアドバイスを行っている。その後、「学生スタッフ登録申請書」の提出を受け、本センター学生スタッフの所属を認めている。

(6)　ボランティアセンター学生スタッフ養成講座

学生スタッフ自身のスキルアップをめざした研修にも力を入れている。2020 年度から、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、Zoom を活用したオンライン形式で実施している。

▸オンライン・ボランティアコーディネート講座

学生スタッフ養成講座として実施したオンライン・ボランティアコーディネート講座では、学生スタッフとしての心構えやボランティアコーディネートについて改めて学ぶとともに、オンラインでボランティアコーディネートを行う際の Zoom 操作方法を実践形式で習得した。



［講座の様子］

事　業　名	オンライン・ボランティアコーディネート講座
日　　時	8 月 26 日（木）10 時 00 分～11 時 30 分
場　　所	オンライン（Zoom）
講　　師	ボランティアセンター職員
参　加　者	学生スタッフ 9 名
内　　容	学生スタッフの一員としての心構え／マニュアル配布 ボランティアコーディネートとは

▸ボランティアセンター学生スタッフ養成合宿（夏）

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、様々な活動に制限がかかり、学生スタッフ間の交流を持つことが難しい状況のため、合宿を通して学生スタッフ間の仲を深め、学びのワークで新体制に向けて今後、どのように活動していくかについて考えることを目的に実施した。

事　業　名	ボランティアセンター学生スタッフ養成合宿（夏）
日　　時	9 月 8 日（水）13 時 00 分～17 時 00 分
場　　所	千里山キャンパス凜風館 4 階ミーティングルーム
参　加　者	学生スタッフ 24 名、教職員 4 名
内　　容	交流ワークとして、漢字一文字紹介、自己紹介ゲーム、漢字しりとり、インサイダーゲームを行い、学生スタッフ間の仲を深めた。学びのワークとして、学生スタッフの活動を一人一人が考える機会を設け、今後の活動について話し合った。

▸学ぼう！書類作成講座

2021 年度 10 月 1 日から新型コロナウイルス感染症に対する大阪府の緊急事態措置が解除され、対面で行うボランティア体験ツアー等の事業が徐々に再開することとなり、事業を企画運営するための事業計画書の作成が未経験の学生スタッフに向けて、書類の作成方法を学ぶための講座を実施した。

事　業　名	学ぼう！書類作成講座
日　　時	10 月 13 日（水）16 時 20 分～17 時 50 分
場　　所	オンライン（Zoom）
講　　師	ボランティアセンター職員
参　加　者	学生スタッフ 9 名
内　　容	体験ツアー等の事業計画書類の作成方法及び施設利用時の提出書類の作成方法を学ぶ。

▸活動引き継ぎ講座～その「引き継ぎ」、本当に引き継げるの？～

ボランティア活動支援グループが支援するボランティア及びピア・コミュニティの学生団体を対象として、コロナ禍により同じ団体のメンバー同士が対面で活動する機会が減少しているなかで重要となる、次世代への「引き継ぎ」について学ぶ講座を実施した。

当日は、グループワークを通して、他団体のよいところを積極的に取り入れることができるように、各団体の引継ぎについて参加者で共有した。また、今回の対面でのワークを通して、団体を超えた交流ができ、横のつながりを創出することができる機会となった。

事　業　名	活動引き継ぎ講座～その「引き継ぎ」、本当に引き継げるの？～
日　　時	12 月 15 日（水）16 時 20 分～17 時 50 分
場　　所	千里山キャンパス第 2 学舎 C301 教室／オンライン（Zoom）
講　　師	シチズンシップ共育企画　川中 大輔 氏
参　加　者	学生スタッフ 2 名、学内ボランティア団体 6 名、ピア・コミュニティ所属学生 12 名
内　　容	コロナ禍で学生団体が次世代へ引き継ぐノウハウを学ぶ。

▸ボランティアセンター学生スタッフ養成合宿（春）

新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴い、学生スタッフの対面で行う活動に制限がかかり、学生スタッフ間の交流の機会が少なかったため、交流ワークを通じて、学生スタッフ間の親睦を深めること。また、グループワークを用いた学びのワークを通じて、各個人の主体性を高めるとともに、学生スタッフとしての目標を決めて、2022 年度の活動に向けて学生スタッフの意識を高めること。さらに、ファシリテーションスキルを身につけて、今後のミーティングや活動に活かしていくことを目的に実施した。2 日間を通して、ファシリテーションの基本スキルを学ぶため、講師を招いて講座の実施や、「ボランティアセンターの認知度向上のための方法」について学生スタッフ全体で議論を行った。

事　業　名	ボランティアセンター学生スタッフ養成合宿（春）
日　　時	3 月 7 日（月）13 時 00 分～17 時 00 分 3 月 8 日（火）13 時 00 分～17 時 00 分
場　　所	千里山キャンパス凜風館 4 階ミーティングルーム
講　　師	日本ファシリテーション協会　藪田 雪子 氏 日本ファシリテーション協会　有村 直子 氏（講師アシスタント）
参 加 者	学生スタッフ 22 名、教職員 5 名
内　　容	様々な交流ワークを行い、学生スタッフ同士の親睦を深めた。また、講義やグループワークなどの学びのワークを通じて、ファシリテーションスキルを身につけ、学生スタッフとしての目標の決定も行った。

(7)　2021 年度ボランティアセンター学生スタッフ活動報告会

2021 年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、緊急事態宣言に伴う不要不急の外出制限や大学の方針に伴う課外活動自粛といった状況下により、本センター主催行事も中止が相次ぐ中、ボランティアセンター学生スタッフは、感染症対策を講じつつ今までとは異なる形でボランティア活動を実施してきた。

コロナ禍での 2021 年度の活動を振り返り、この機会に新たな知見やアイデアを得て、2022 年度に向けて前向きな気持ちで学生スタッフの活動に取り組めるような場とすることを目的に、関係者に向けて活動報告会を実施した。

各事業の主な活動について、2021 年度の実施報告で運営内容の振り返りや 2022 年度の活動に向けての発表を行い、最後に、今後のボランティアセンター学生スタッフの活動や、2022 年度の学生スタッフの体制について発表があった。

事　業　名	2021 年度ボランティアセンター学生スタッフ活動報告会
日　　時	2 月 26 日（土）13 時 00 分～15 時 00 分
場　　所	千里山キャンパス凜風館 4 階ミーティングルーム／オンライン（Zoom）
参 加 者	学生スタッフ 24 名、教職員 9 名

2　学生スタッフ活動記録

学内でのボランティア活動の企画やさまざまな社会問題の啓発活動を行っている。

（1）びわ湖を美しくする運動

関西大学ボランティアセンター学生スタッフは 2017 年度から琵琶湖の保全活動に取り組んでいる。

2017 年度は外来生物駆除活動、2018 年度は清掃活動を実施したが、2019 年度及び 2020 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により実施を見合わせた。

2021 年度は、3 年ぶりの実施に向け、現状を把握するために、実際に琵琶湖に足を運び、滋賀県が毎年 7 月 1 日のびわ湖の日に実施する「びわ湖を美しくする運動」の特定外来生物のオオバナミズキンバイおよびナガエツルノゲイトウの駆除活動に参加した。

滋賀県が取り組む琵琶湖の環境保全について、現状と課題、特に侵略的外来水生植物の繁殖力やその影響による被害などを伺った。また、実際に、湖岸に生息する大量のオオバナミズキンバイを手作業で取り除く体験を行い、学生スタッフとして何ができるのかを考えることに繋げ、今後企画する「琵琶湖ツーリズム！大学生で考える環境ボランティアの未来（実践編）」で実現することとした。

［参加学生スタッフで集合写真］

［駆除作業をする様子］

日　　時	7 月 1 日（木）9 時 00 分～10 時 30 分
場　　所	滋賀県大津市　大津市なぎさ公園
参加者数	学生スタッフ 4 名、教職員 3 名
内　　容	オオバナミズキンバイおよびナガエツルノゲイトウの駆除及び関係者への取材

------　【参加者の声】　----------

●オオバナミズキンバイを日本で初めて発見された先生にもお会いできて、特定外来植物が琵琶湖に及ぼす影響について伺うことができました。

（学生スタッフ・4 年次生）

●湖岸にびっしりとオオバナミズキンバイが根を張っていて、取り除くのにかなりの力を要しました。採っても採っても採りきれず、特定外来生物の生命力の強さに驚きました。

（学生スタッフ・4 年次生）

●大阪を流れる淀川のためにも、ボランティアセンター学生スタッフのわたしたちが、ぜひこれからも駆除活動のお手伝いをしたいと思いました。

（学生スタッフ・4 年次生）

（2）淀川掃除

淀川河川敷のゴミ拾いをすることで、淀川の水質や景観を保護する活動である。

ゴミ拾いという比較的気軽に参加できる点を活かして、やりがいや参加者同士での交流などボランティアの魅力を広める機会として実施した。

2020 年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響で活動ができなかったが、2021 年度は、学生スタッフのみで 7 月に下見を兼ねて西中島地区の清掃活動を実施した。下見に行った際に、今まで活動していた西中島地区には大きな河川敷公園があり、個人及び団体のボランティアの方々が熱心に取り組まれており、そのおかげで、ごみが減少傾向にあることがわかった。

そこで、淀川河川事務所に相談を行ったうえで、行政の対応が追い付いていないより河口の西淀川区福町地区へ場所の変更を行い、11 月に実施することとなった。河川敷には、粗大ごみから細かく砕かれた生活ごみが多くあり、予定の時間では全然足りなく、今後この福町地区を淀川掃除の場所として継続していくこととした。

［河川敷を清掃する様子］

日時／場所	7 月 11 日（日）10 時 00 分～12 時 00 分／西中島地区 11 月 21 日（日）10 時 00 分～12 時 00 分／西淀川区福町地区
内　　容	淀川河川敷の清掃
参 加 者	7 月 11 日（日）学生スタッフ 10 名 11 月 21 日（日）学生スタッフ 6 名、一般学生 10 名、体育会学生 5 名

【参加者の声】

●多くのゴミを拾うことができて良かったが、河川敷にたくさんのゴミが落ちている現状を初めて知り、ゴミを減らす取り組みもしていかないといけないと感じました。

（政策創造学部・3 年次生）

●清掃活動をする中で、ペットボトル、缶などのゴミだけでなく様々な種類のゴミが落ちていて、自分たちが生活のいろんな場面で様々なゴミを生んでいることを肌で感じました。

（法学部・2 年次生）

（3）ようこそ！関大サロンへ（高齢者施設入居者との交流）

コロナ禍であってもできるボランティア活動として、吹田市社会福祉協議会のご協力を得て、2021 年度から高齢者施設に入居する方々と Zoom をつないだオンライン交流会を開始した。

同世代の交流だけでなく、高齢者のような日常の中では繋がりを持ちにくい異世代との交流として、高齢者の人々の文化を享受するだけでなく、若者の文化を知ってもらうために一緒にゲームや歓談を行い、地域において世代を超えたつながりや相互理解を深める機会を創出することを目的とした。加えて、高齢者の方との接し方を学び、学生のコミュニケーション能力の向上を図るとともに、高齢者の方や施設職員との関わりの中で、どのようなボランティアや支援が必要なのかを知り、これから新たに行う活動を企画する際の気づきを得ることができた。

［画面を通して交流する様子］

［クイズを実施している様子］

日　　時	① 7 月 11 日（日）13 時 00 分～14 時 00 分 ②10 月 25 日（月）10 時 40 分～12 時 10 分 ③ 3 月 28 日（月）10 時 00 分～11 時 00 分
場　　所	オンライン（Zoom）
内　　容	Zoom を用いて入所者とのゲーム、歓談
参 加 者	① 7 月 11 日（日）学生スタッフ 3 名、高齢者 3 名 ②10 月 25 日（月）学生スタッフ 4 名、高齢者 3 名 ③ 3 月 28 日（月）学生スタッフ 5 名、高齢者 3 名

------ 【企画学生の声】 ----------

●高齢者の方に「分かる楽しみ」と「考える楽しみ」のどちらも体感してほしいという気持ちからゲームを考えたが、内容が簡単すぎたため様々な難易度の問題を混ぜるなど工夫を行えばよかったと思いました。ただ、「楽しかった」「ありがとう」という言葉を聞けて終始楽しそうにしていただけたので、企画してよかったと思いました。

（学生スタッフ・1 年次生）

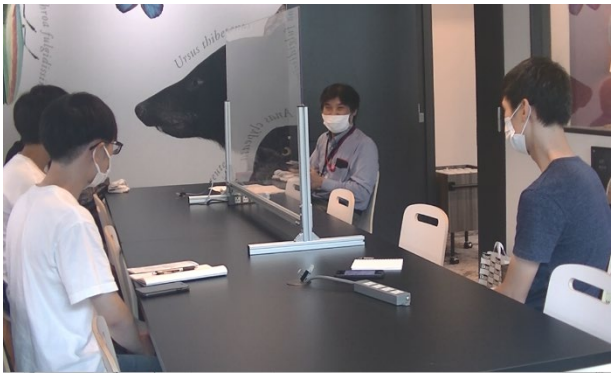
（4）琵琶湖岸の掃除及び琵琶湖博物館見学

琵琶湖博物館を訪問し、琵琶湖の歴史や自然環境の変化について理解を深めるとともに、専門学芸員の中井 克樹 氏から特定外来生物オオバナミズキンバイおよびナガエツルノゲイトウの繁茂の状況についてお話を伺った。新型コロナウイルス感染拡大の影響により当初予定していた９月の駆除活動は難しいと判断し、９月は活動前の事前講座をオンラインで行うことに変更、また駆除活動は 11 月に延期することなどの打合せを行った。

また、琵琶湖岸の現状を知ることを目的として、琵琶湖博物館と共同で琵琶湖博物館周辺の清掃活動を行った。

日　　時	8 月 22 日（日）10 時 30 分～15 時 00 分
場　　所	滋賀県草津市　滋賀県立琵琶湖博物館
参 加 者 数	学生スタッフ５名、教職員３名
内　　容	琵琶湖のことをより深く理解するために、琵琶湖博物館を訪問した。また、９月以降に予定している琵琶湖ツーリズムの活動を安全に行うために、現地の様子を確認することを目的として実施した。

［琵琶湖博物館の見学］



［中井先生と打合せを行う様子］

［琵琶湖岸を清掃する様子］

［学生スタッフ集合写真］

（5）災害時にも役立つキャンドルワークショップ

2016 年に開校した梅田キャンパスとその付近の地域交流、地域活性を目的に、梅田茶屋町エリアでのキャンドルイベントに 2017 年から参加している。2021 年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため、オンラインでの実施となった。

今回は、「1000000 人のキャンドルナイト＠OSAKA CITY 茶屋町スロウディ 2021」のオンラインワークショップの１つとして、ボランティアセンターで取り扱うことの多いキャンドル系ボランティアの活動を学外の方に知ってもらうきっかけとすることを目的に、キャンドル作りの動画の作成を行った。

オリーブオイルやアルミホイルなど、災害時にも家にある身近なものを使って簡単に作ることができるキャンドルの作り方を紹介する内容だったが、197 回（2021 年度末時点）の視聴があった。

［放送動画の様子］

［放送動画の様子］

日　　時	9 月 23 日（木）
場　　所	オンライン
内　　容	「1000000 人のキャンドルナイト＠OSAKA CITY 茶屋町スロウディ 2021」のオンラインワークショップの１つとして、ボランティアセンターで行ったキャンドル系のボランティアの紹介、キャンドル作りのレッスンを内容とした動画を作成した。
参 加 者	学生スタッフ８名

------ 【企画学生の声】 ----------

●コロナ禍でもできるボランティアの形を模索していた中で、広くいろいろな方に見ていただける動画を作成する機会をいただけたことは、ボランティアセンター学生スタッフの私たちが、新しいボランティアの形に目を向けるきっかけにもなりました。動画編集等、なれない作業もありましたが、自分たちが発信した情報を多くの方に見ていただけて、大きなやりがいを感じました。

（学生スタッフ・3 年次生）

（6）ピア×ボラ 秋!!オンライン新歓イベント

関西大学ボランティアセンター学生スタッフは、ボランティア活動の企画・運営を通して、学生がボランティア活動に参加するきっかけづくりを行っている。今後、本学学生にさらにボランティア活動に興味を持ってもらうために、本センターのことをより多くの学生に知ってもらうことを目的として、本学ピア・コミュニティと協力して実施した。

当日は、学生スタッフと各ピア・コミュニティの活動紹介や、学生スタッフとピア・コミュニティ学生で「コミュニティに入ったきっかけ」「活動を通して成長したところ」などについて対談を行った。参加してくれた関大生が団体に加入してくれるなどメンバー募集に繋がる活動となった。

［学生スタッフの活動紹介の様子］

［全体の様子］

日　　時	10 月 7 日（木）・8 日（金）12 時 20 分～12 時 50 分
場　　所	オンライン（Zoom）
内　　容	ボランティア活動及びピア・サポート活動紹介 ボランティアセンター学生スタッフ及びピア・コミュニティ活動紹介 対談

【参加者の声】

●説明もわかりやすく、より興味がわいた内容でした。ホームページなどで内容を見た時よりももっと身近に感じられたことや、詳しく具体的に説明していただけたことが良かったです。

（1 年次生）

●元々ボランティアに興味があったが、学内にはボランティア団体がたくさんあり、違いが分かりませんでした。今回参加して、活動内容を知ることができて良かったです。

（1 年次生）

（7）千羽鶴で医療従事者の方々へ感謝を！

新型コロナウイルス感染症の感染拡大により医療が逼迫する中、最前線で戦い続けてくださる医療従事者の方々に感謝の意を伝えるために、市立豊中病院に向けて千羽鶴を作成した。

「過酷な医療の現場に立ってくださっている方々に何かできないだろうか」という想いと、新型コロナウイルス感染拡大の影響を受け、思うように活動することも、学生スタッフ同士で気軽に交流することもできない中で、「学生スタッフ同士で気持ちを交わす機会を創れないだろうか」という想いを感じていたことから、千羽鶴作成を通じて学生スタッフの交流の機会を設け、医療従事者の方々に感謝を届けるため本企画を実施した。

［千羽鶴を作成している様子］

［作成した千羽鶴］

日　　時	製作期間：5 月 6 日（木）～10 月 27 日（水） 10 月 28 日（木）　郵送
寄 贈 先	市立豊中病院
内　　容	Zoom を用いて学生スタッフ同士がコミュニケーションをとりながら、心を込めて作成した折り鶴を、誠之館 2 号館 1 階ボランティアステーションで繋げ、千羽鶴にして病院に寄贈した。
参 加 者	学生スタッフ 10 名

------ 【企画学生の声】 ----------

●ささやかな形ではありますが、少しでも日々感じている感謝や応援の気持ちが届いたらいいなと願いながら作りました。（学生スタッフ・3 年次生）

●オンライン授業が続き、休み時間に友達と他愛もないおしゃべりをするというような時間が日常生活から消えて気が滅入っていたところに、折り鶴を折りながらおしゃべりをして、気持ちに共感し合えたことは、大きな救いでした。（学生スタッフ・2 年次生）

（8）吹田くわいボランティア

関西大学千里山キャンパスのある吹田市のことを知ってもらい、伝統野菜を守ることを目的に、例年、吹田市の特産品である吹田くわいの植え付けから収穫までをボランティアとしてお手伝いしている。

2021 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により 11 月の除草作業からお手伝いとして参加することとなった。12 月の収穫では、あいにくの降雨のなか、胴長を着用して畑の中に埋まっているくわいを掘り出す作業を行った。

［くわいを収穫している様子］

日　　時	【除草】11 日 2 日（火）13 時 00 分～15 時 30 分 【収穫】12 月 7 日（火）13 時 00 分～15 時 30 分
場　　所	大阪府吹田市　西農園
内　　容	吹田くわいの除草と収穫を行う。またご協力いただく農園の方に主に吹田くわいについての知識などを教えていただいた。
参 加 者	【除草】学生スタッフ 2 名 【収穫】学生スタッフ 5 名、一般学生 1 名

【参加者の声】

●実際に泥の中に入ってくわいをとる体験は、とても新鮮で貴重な時間となりました。また、参加している方々と一緒になってくわいの収穫ができたことも、交流をすることができ、非常に楽しく思い出深いボランティアになりました。　（政策創造学部・4 年次生）

【企画学生の声】

●除草活動と収穫作業に参加して、くわいがどのように成長するのかなど、くわいについて興味がわきました。今年度実施できなかった吹田くわいの植え付け作業にも来年ぜひ参加したいと思いました。　（学生スタッフ・2 年次生）

（9）千里キャンドルロード 2021

１年ぶりの千里キャンドルロードプロジェクト主催のキャンドルアートイベントに、イベントボランティアとして参加した。

本活動は、2021 年度において、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う課外活動の制限が緩和されて初めてのボランティア体験ツアーとなった。

活動を通して地域住民の方と交流することで、関大生と地域住民の方の繋がりを持つきっかけにするとともに、関大生にボランティアの楽しさや魅力を知ってもらう機会となること、さらに、幅広い世代と交流することで、コミュニケーション能力の向上を図ることを目的として実施した。

関西大学ボランティアセンター学生スタッフ

日　　時	11 月 6 日（土）9 時 00 分～21 時 00 分
場　　所	大阪府豊中市　千里中央公園
内　　容	キャンドルの準備（色付け・設置・点火・片付け）
参 加 者	学生スタッフ 18 名、一般学生 4 名

【参加者の声】

●地元の方が大勢参加する規模の大きいイベントに、準備の段階から参加できてとても楽しかったです。完成した会場を見たときに、このイベントに関われて良かったな、と思いました。
（法学部・3 年次生）

●ボランティアセンター学生スタッフの方が優しく、気軽に話しかけてくださったのでとても参加しやすかったです。来年もまた参加したいです。（法学部・1 年次生）

●ボランティアは、誰かに何かをしてあげることというイメージがありましたが、自分が楽しめることをしていて、結果的に誰かの笑顔や癒しに繋がっていたという感覚の活動でした。ボランティアのイメージが変わりました。（社会学部・2 年次生）

［キャンドルを設置している様子］

［参加者集合写真］

（10）～献血をもっと身近に～献血呼びかけボランティア

全国の 10 代・20 代の献血者数は、ここ 10 年間で約 70 万人減少しているため、現在の日本では少子高齢化が進み、輸血を必要とする高齢者の割合が増える一方で、それを支える若者が減っているという危機的状況がある。また、コロナ禍により献血の機会となるイベントが相次いで中止となっていることも、輸血用の血液不足を深刻にする一因となっている。そのような背景から、関大生に向けた献血への啓発とともに献血についての知識を深め、今後も開催される献血活動への定期的な参加に繋がることを目的として実施した。

当日は、看板を持ち、献血への協力のお願いについて関大生へ呼びかけを行った。

日　　時	①11 月 8 日（月）10 時 00 分～14 時 10 分 ②11 月 9 日（火）10 時 00 分～12 時 50 分
場　　所	千里山キャンパス総合図書館前
内　　容	準備段階における献血実施の大型モニターや SNS での広報、看板作成 当日、献血車前や千里山キャンパス各地での献血の呼びかけ
参 加 者	①学生スタッフ 4 名、一般学生 2 名 ②学生スタッフ 3 名、一般学生 2 名

【参加者の声】

●献血呼びかけ活動をしてみたことによって、献血をより身近に感じることができました。
（社会学部・1 年次生）

●ボランティアの学生スタッフの方と交流することができ、自分たちの呼びかけによって献血をする方がいるのを見て嬉しく、参加してよかったと思いました。
（システム理工学部・3 年次生）

［献血呼びかけ活動の様子］

［献血呼びかけ活動中の様子］

（11）関大クリーン大作戦～千里山キャンパスとその周辺の清掃活動～

近隣住民の方に気持ち良く過ごしていただけるよう、普段利用しているキャンパス周辺の清掃を行った。関大生にとっては、授業の空きコマに気軽に参加できるボランティアであり、参加者同士が交流しながら楽しく活動できることから、関大生にボランティアを身近に感じてもらうきっかけづくりとして実施した。

活動開始前には初対面の学生の緊張を解すためにアイスブレイクを行った。学部や学年に関係なく学生同士が交流することで、その後の活動も和やかな雰囲気であった。ボランティアが気軽に始められるものであるとともに、活動をきっかけとしてつながりが広がることを体感する機会となった。

日　　時	11 月 13 日（土）10 時 40 分～12 時 10 分
場　　所	千里山キャンパス周辺
内　　容	千里山キャンパス周辺の清掃
参 加 者	学生スタッフ 4 名、一般学生 9 名

【参加者の声】

●いつも通っている関西大学のキャンパス周辺を綺麗にすることができて出来てよかったです。気軽に参加することができたので、また参加したいなと思いました。
（経済学部・1 年次生）

●ボランティア活動を通して、普段関わることのない他学部の学生など関大生同士で交流をすることができたことが良かったです。（法学部・3 年次生）

［悠久の庭でアイスブレイク］

［関大周辺を清掃する様子］

（12）関大クリーン大作戦 in 高槻

関西大学高槻ミューズキャンパス周辺を清掃することにより、地域の方々や関西大学の学生、併設校の生徒・児童が気持ち良く過ごせること、また、キャンパス周辺で活動することにより、高槻ミューズキャンパスの学生にも授業の空きコマや昼休みに、気軽にボランティア活動に参加してもらえる機会を創出することを目的に、学生スタッフが今後の活動予定場所の下見を行った。

2021 年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止によりボランティア体験ツアーとしての実施ができなかったため、2022 年度に実施するための下見と併せて学生スタッフだけで清掃活動を実施した。

日　　時	11 月 13 日（土）14 時 40 分～16 時 30 分
場　　所	阪急高槻市駅から安満遺跡公園までの道のり、安満遺跡公園内
内　　容	ボランティア体験ツアー開催のための下見として、高槻市でごみ拾いをする
参 加 者	学生スタッフ 4 名

【参加者の声】

●高槻キャンパスや高槻ミューズキャンパスの学生にも、気軽にボランティアの魅力を感じてもらえる機会を創りたいと考えていたので、今回の下見をもとにボランティア体験ツアーを企画していこうと思った。

（学生スタッフ・2 年次生）

●高槻ミューズキャンパスの最寄駅である JR 高槻駅や阪急高槻市駅は、高槻キャンパスに通う学生にとっても最寄駅になるので、この 2 つの駅の間を活動場所にすれば、どちらの学生にとっても参加しやすいボランティア体験ツアーになるのではないかと思う。活動を通して、キャンパスが違う学生の交流の場にもなればいいなと感じた。

（学生スタッフ・3 年次生）

（13）琵琶湖ツーリズム！大学生で考える環境ボランティアの未来（実践編）

関西大学が提供する連携事業として、法政大学の学生ボランティアとともに、琵琶湖岸の環境保全活動を行った。本来ならば、2020 年度に実施する予定の公益財団法人電通育英会助成事業であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により度重なる延期となり、何度も計画を変更してようやく実施することができた。

10 月のオンライン講座による勉強会に続き、事前に、学生スタッフから下見の報告や当日の駆除活動に関する行程説明、注意事項などを参加者に伝え、その後、当日の活動班で顔合わせをし、近況報告などを行うことで本番を前に親睦を深めた。

11 月 14 日は、感染症対策を講じて、琵琶湖岸のヨシ植栽地に繁茂する特定外来生物のオオバナミズキンバイの駆除活動を実施した。学生ボランティア全員が胴長を着用し、腰までの水位の琵琶湖に入り、湖水の底に根を張っているオオバナミズキンバイを、途中でちぎれることのないよう根元から丁寧に引き抜き、陸に上げる作業を熱心に行った。その結果、今回駆除を担当したのは琵琶湖のほんの一部ではあるが、夕方には、湖面がきれいになり、全員がやりがいや充実感を得、大学生として環境ボランティアの未来を考えるうえでの契機となった。

また、今回の対面活動を通し、大学の所属を越えて学生ボランティア同士が交流も行うことができ、有意義な 1 日となった。

日　　時	①事前説明会：11 月　1 日（月） ②駆除活動：11 月 14 日（日）7 時 30 分～18 時 00 分
場　　所	①オンライン（Zoom） ②滋賀県琵琶湖岸　近江八幡市牧町のヨシ植栽地
参 加 者 数	①学生スタッフ 8 名、一般学生 8 名、他大学学生 4 名 ②学生スタッフ 11 名、一般学生 18 名、教職員 4 名、他大学学生 8 名
内　　容	琵琶湖の環境保全活動を通して、琵琶湖にオオバナミズキンバイやナガエツルノゲイトウといった特定外来生物が生息していることを知り、駆除の必要性を学ぶ。また、駆除活動を通して一緒に活動した大学生同士で交流することで、環境ボランティアの未来を考えるきっかけづくりを目的として実施した。

【参加者の声】

●オオバナミズキンバイの湖底にしっかり根をはる凄まじい繁殖力に驚きました。参加者で頑張った結果、限られた時間でも湖面がすっきり綺麗になった状況を見て、かなりの達成感がありました。そして関西大学の学生さん達と日頃の活動や西と東の文化習慣の違い等の話もできて楽しいひとときでした。あと関西大学の職員の方々と学生の皆さんがいろいろと細かい配慮、気遣いをして下さった事、本当に感謝です。

（法政大学・4 年次生）

●特定外来生物とそれ以外の植物の見分け方が難しく、水の中での駆除活動は想像していた以上に疲れましたが、その分達成感をすごく感じることができました。また、普段は関わる機会の少ない法政大学の学生や他学部の関大生とも交流することができて、また参加したいと思える楽しい活動になりました。

（関西大学・4 年次生）

●胴長を着て、琵琶湖の中に入っての駆除活動はとても大変でした。また、この活動を普段からしている方がいらっしゃるのだと知って感服しました。このような方々がいてくださるから琵琶湖の水が綺麗に保たれ、僕達が飲料水や水を使えているのだとわかり、感謝の気持ちでいっぱいになりました。

（関西大学・1 年次生）

［オオバナミズキンバイ駆除活動の様子］

［枝や葉を残さないため網で拾う様子］

［駆除したオオバナミズキンバイ］

［集合写真］

（14）高槻景観美化ボランティア

高槻キャンパス・高槻ミューズキャンパスがある高槻市で自然と共生する「花と緑のまちづくり」に寄与することを目的として活動されている高槻景観園芸クラブの活動に参加し、地域の方々との交流を通して、学生に環境美化、地域交流の必要性を学んでもらうことを目的として実施した。

幅広い世代の憩いの場所である公園を美化することで、以後のボランティア参加への足がかりになるような体験となった。また、コロナ禍でもボランティア活動を通して、地域の方々との交流の機会を大切にし、積極的にコミュニケーションを取る姿勢を学ぶ機会となった。

日　　時	11 月 21 日（日）8 時 50 分～11 時 00 分
場　　所	高槻市 城跡公園
内　　容	城跡公園内の花壇の手入れ（草抜き、苗床の整備）
参 加 者	学生スタッフ 4 名、一般学生 5 名

【参加者の声】

●お花を植えるときの方法やコツを丁寧に教えていただき、いろいろな方とコミュニケーションを取りながら楽しくボランティア活動に参加することが出来ました。

（法学部・2 年次生）

●公園という普段沢山の方が利用する場所の花壇の整備を行うことで、間接的ではあっても人の役に立っていることを実感でき、とてもやりがいを感じることができました。

（商学部・1 年次生）

［花植えを行っている様子］

［集合写真］

（15）関大クリーン大作戦 in 梅田～梅田キャンパス周辺の清掃～

関西大学梅田キャンパス周辺の清掃活動を通して、キャンパス周辺の環境や景観を保護するとともに、気軽にはじめられる活動が社会貢献につながるボランティアの魅力を体験できる機会として実施した。

当日は、梅田キャンパス内でアイスブレイクを行った後、2 グループに分かれて茶屋町エリアの清掃を行った。1 時間程度清掃し、合計でゴミ袋 3 袋分のゴミを回収した。

活動中に、通行人の方や清掃を行っている道路の並びにある店舗の方から「ありがとう。」とお礼の言葉をいただき、参加した学生ボランティアからも嬉しかったと喜びの声を聞くことができた。

日　　時	12 月 18 日（土）9 時 00 分～11 時 00 分
場　　所	梅田キャンパス周辺
内　　容	梅田キャンパス周辺の清掃
参 加 者	学生スタッフ 5 名、一般学生 5 名

【参加者の声】

●清掃活動をしている時に、通行中の方から「ありがとう」と声をかけていただき嬉しかったです。
（経済学部・4 年次生）

●初めてボランティア活動に参加しましたが、やってみると楽しいということがわかり、また、たくさんのゴミを拾うことができてとてもやりがいがありました。
（政策創造学部・1 年次生）

［茶屋町周辺を清掃する様子］

［集合写真］

（16）第３回 大和川大掃除～捨てられた物、失った物 拾ってつながる未来の輪～

2017 年度に、「大掃除」の場所を淀川から本学堺キャンパス近くの大和川河川敷に移し、以降「大和川大掃除」として実施している。2018 年度は 500 名を超える学生が活動に参加し、河川敷の美化に貢献することができたものの、2019 年度は雨天、そして 2020 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。

2021 年度は３年ぶりでの実施となり、当初は 300 名を超える学生ボランティアの申込みがあったものの、新型コロナウイルスの急拡大により、規模を縮小し、通常のボランティア体験ツアーとして実施した。コロナ禍における、2021 年度の活動としては最大人数規模の 80 名超が参加したボランティアとなった。

日　　時	2 月 20 日（日）10 時 00 分～12 時 00 分
場　　所	大和川公園河川敷
内　　容	大和川公園河川敷の清掃
参 加 者	学生スタッフ 19 名、一般学生 12 名、体育会学生 43 名　教職員等 7 名

【参加者の声】

●大和川河川敷での清掃でたくさんゴミを拾うことができ、活動後には綺麗になった河川敷を見て心まで綺麗になりました。（文学部・1 年次生）

●河川敷という普段自分で掃除をしない場所の掃除だったので、新鮮な気持ちになれました。（社会学部・3 年次生）

［大和川河川敷を清掃する様子］

［集合写真］

［収集したゴミ袋］

（17）琵琶湖ツーリズム！大学生で考える環境ボランティアの未来（実践編 2～赤野井湾清掃～）

今回は、清掃活動を通して、赤野井湾の現状、また定期的な駆除活動の重要性と大変さを学ぶとともに、一緒に活動した大学生同士で交流することで、環境ボランティアの未来を考えるきっかけとすることを目的として認定 NPO 法人びわこ豊穣の郷に協力いただき清掃を行った。

当日は、赤野井湾湖岸にて認定 NPO 法人びわこ豊穣の郷 理事長 金﨑 いよ子 氏より琵琶湖の湖底ゴミについて回収されたゴミの種類や身近なことでできることについてお話いただき、琵琶湖の現状について学んでから実際に清掃活動を行った。

清掃後は琵琶湖博物館へ行き、琵琶湖の歴史や現状について更に学びを深め、環境ボランティアの未来について考える機会とした。

日　　時	2 月 25 日（金）10 時 00 分～14 時 30 分
場　　所	滋賀県守山市赤野井湾湖岸、滋賀県立琵琶湖博物館
参 加 者 数	学生スタッフ 11 名、一般学生 5 名、教職員 2 名
内　　容	赤野井湾湖岸での清掃活動、琵琶湖博物館の見学

【参加者の声】

●大学のボランティアには初めて参加しましたが、企画をしている学生スタッフの方が段取りなどしっかりされていて、アイスブレイク等の交流の機会もあったため、初めての参加でも楽しく有意義な時間を過ごせました。（社会学部・4 年次生）

●沢山の家庭ゴミが流れついている湖岸の様子を知り、改めてゴミを減らす重要性が分かりました。（システム理工学部・2 年次生）

［琵琶湖岸を清掃する様子］

［収集したゴミ袋］

［集合写真］

（18）関大クリーン大作戦～関大前の交流の輪を広げよう！～

地域の方々との交流を深め、普段多くの学生が利用している阪急電鉄関大前駅や関西大学千里山キャンパス付近を綺麗にすることを目的として実施した。

コロナ禍の影響もあり、学生スタッフが関大前駅周辺の地域の方々と清掃活動を行うのは、実に３年ぶりとなった。当日は、関西大学周辺まちづくり勉強会※のみなさんや本学職員とともに阪急電鉄関大前駅～関西大学正門の周辺道路や遊園の除草や清掃を行った。

2022 年度は、学生スタッフだけでなく一般学生を募り「ボランティア体験ツアー」として、定期的に関大生と地域の方々との交流を目指す。

［関大前通りを清掃する様子］

［地域の方との集合写真］

日　　時	3 月 10 日（木）14 時 00 分～15 時 00 分
場　　所	阪急電鉄関大前駅～関西大学正門の周辺道路・遊園
内　　容	阪急電鉄関大前駅～関西大学正門の周辺道路・遊園の清掃
参 加 者	学生スタッフ５名、関西大学周辺まちづくり勉強会のみなさん※

※阪急電鉄関大前駅周辺の地域において、安心・安全で活力と魅力あふれる「まちづくり」を推進し、自治会、関大前商店街、学校法人関西大学及び行政で課題を共有し、方策を検討することを目的とした組織です。現在は、関大前ラボラトリ（通称まち・かん 114）の管理運営及び関大前周辺地域の美化活動を主たる活動としています。

【参加者の声】

●千里山キャンパス周辺は普段からよく使う道だけど、掃除してみて、たばこなどのゴミが想像以上に多かったので驚きました。今回は地域の方と学生スタッフで除草作業とゴミ拾いにわかれて活動したけど、今後は地域の方と学生スタッフ混合の班にわかれて交流を増やしたり、時間ごとで作業場所を交代したりしてもいいかもしれないと思いました。

（学生スタッフ・2 年次生）

●ゴミ拾いができて地域住民との交流もできる、とても良い活動だと思いました。地域住民の方々がすごく優しくて、接しやすかったので、安心して活動することができました。参加できて良かったです。

（学生スタッフ・1 年次生）

（19）第１回 飛鳥ハーフマラソンボランティア

関西大学と縁の深い奈良県明日香村で初めて開催される飛鳥ハーフマラソンに、本学も学生ボランティアという形で参加し、地域貢献活動に寄与するとともに、ボランティア経験の浅い学生に対し、ボランティアのやりがいや魅力を広めることを目的として実施した。

今大会は「走ってタネをまこう」をコンセプトにマイボトル・マイカップ給水を推奨しており、当日は、2 地点の給水所で学生ボランティアからランナーの方へ給水提供を行った。ランナーの方から「ありがとう。」と声をかけられることもあり、参加した学生からも達成感と充実感を感じたと声があった。

活動後は飛鳥文化研究所にてグループに分かれてのアイスブレイクを行うなど参加者同士で交流会を行い、仲を深めた。

日　　時	3 月 13 日（日）9 時 00 分～13 時 10 分
場　　所	奈良県高市郡明日香村男綱周辺
内　　容	給水所でのランナー給水提供・コーン配置
参 加 者	学生スタッフ 5 名、一般学生 16 名

［給水ボランティアの様子］

［集合写真］

［飛鳥文化研究所にてアイスブレイク］

【参加者の声】

●給水ボランティアの活動に興味をもち、参加しました。参加した関大生同士で交流することができ、あたらしい繋がりをつくることができて楽しかったです。

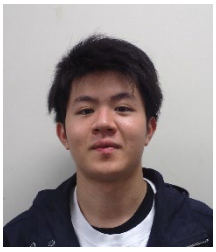
（法学部・1 年次生）

●今まで経験したことがないことに挑戦してみたいと思い参加しました。ランナーの方から「ありがとう」と声をかけていただき、応援をするだけでなく元気をもらうことができました。

（法学部・1 年次生）

3　学生スタッフ代表からの一言

ボランティアセンター学生スタッフ代表
2021 年度代表　3 年次生　北嶋龍冴



私は、2021 年度にボランティアセンター学生スタッフの代表をさせていただきました。私がボランティアに参加してみようと思ったきっかけは、『僕たちは世界を変えることができない』という映画を見て、誰かの役に立っていると実感できることがしたいと考えたからです。そして、ボランティアをする理由を自分なりに見つけるためにボランティアに参加しました。大学に入学する前の私は、ボランティアに参加したことがありませんでした。しかし、実際にボランティアセンターの活動に参加して、ボランティアの魅力を見出すことができました。

私は、ボランティアの魅力は「実感」だと思います。自分たちの活動によって、綺麗になった街を見た時や、感謝の言葉をかけていただいた時に、誰かの役に立っていると肌身で感じることができます。また、活動を続けていくうちに、ボランティアだけでなく、何事にも自発的に行動するようになっている自分に気づき、自分自身の成長を実感することができました。実際の活動中にも、リーダーの指示通りに取り組むというよりは、自発的に動くことができる人が多いように感じます。

ボランティアを通じて自身が主体的に動けていると実感できることや、社会問題に目を向けて考えることは、大学生である私たちにとって有意義な時間になると思います。ボランティアの魅力は、実際にボランティア活動をしてみないとわかりません。私自身ボランティアをする理由を見出せずに始めたのですが、今では私の大学生活の一部になっており、どのように広報すればボランティアに興味を持ってくれるか、どういった内容なら参加者が楽しめるボランティアになるかを、私たち学生スタッフは日々考えています。

一人でも多くの関大生がボランティアに参加しボランティアの魅力を実感することで、また参加してみたいと前向きに考えるようになっていただきたいです。その一歩目を、私たち学生スタッフがサポートしていきたいと思います。私たち学生スタッフは、一人でも多くの関大生にボランティアの魅力を実感してもらうためにこれからも精進してまいります。

Ⅲ　学内ボランティア団体への支援について

１　学内ボランティア団体への支援

２　社会貢献を行う学生団体

1　ボランティア団体への支援

(1)　大学としての危機管理～ボランティア活動保険への加入の奨励～

ボランティアセンターでは、学内のボランティア団体（届出団体）に対して、活動の安心・安全を確保するために、「ボランティア活動保険」への加入の奨励をしている。また、大学からボランティア（地域貢献）活動を依頼することもあり、学生の経済的負担を軽減するため、保険加入費用を助成している。

助成団体	児童文化研究サークル子どもの国「あかとんぼ」、児童文化実践サークル「うぷ」、ボランティアサークル「チャレンジャー」、文化会「ユネスコ研究部」、ボランティアセンター学生スタッフ、学生団体「KUMC」、「WEVO」

(2)　関西大学ボランティアセンター・ボランティア団体とのミーティング

ボランティアセンター学生スタッフが中心となって、ボランティア団体とともに、定期的にミーティングを実施している。ミーティングを通して、ボランティア活動に関する情報共有をはじめ、ボランティアフェスティバルや新入生オリエンテーション期間に協力して勧誘活動を行うなど、学生団体同士の連携が促進されている。

開催日時	不定期実施　全９回
場　　所	オンライン（Zoom）
参加団体	手話サークル「あっぷる」、児童文化研究サークル子どもの国「あかとんぼ」、児童文化実践サークル「うぷ」、ボランティアサークル「チャレンジャー」、文化会「ユネスコ研究部」、ボランティアセンター学生スタッフ、学生団体「KUMC」、「WEVO」

(3)　ボランティアフェスティバル

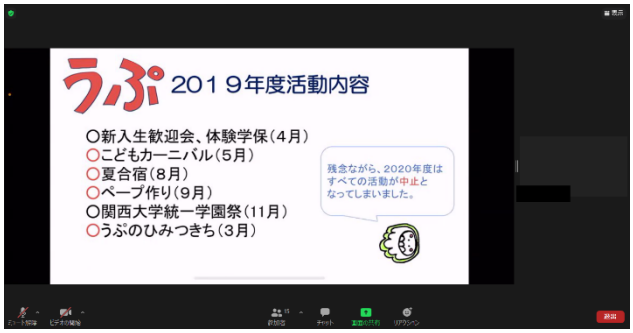
例年、新入生歓迎行事の時期に「ボランティアフェスティバル」と題して、凜風館 1 階学生ラウンジに団体紹介ブースを出展し、本学のボランティア団体を知ってもらうことを目的としたイベントを実施している。

2021 年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、本学の授業形態がオンラインとなったことから、Zoom を活用したオンライン上での団体紹介イベントを実施した。

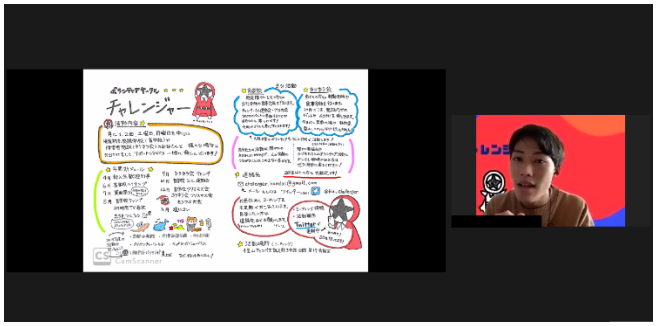
各団体の紹介動画を撮影し、SNS 等を活用して本学学生だけでなく幅広く各団体の活動を紹介する機会となった。

実施日時	4 月 20 日（火）12 時 20 分～12 時 50 分（3 団体） 4 月 22 日（木）12 時 20 分～12 時 50 分（4 団体） 4 月 24 日（土）13 時 00 分～14 時 30 分（7 団体）
場　　所	オンライン（Zoom）
参加団体	児童文化研究サークル子どもの国「あかとんぼ」、手話サークル「あっぷる」、 児童文化実践サークル「うぷ」、ボランティアサークル「チャレンジャー」、 文化会「ユネスコ研究部」、ボランティアセンター学生スタッフ、 学生団体「KUMC」

［KUMC　活動紹介］



［うぷ　活動紹介］



［チャレンジャー　活動紹介］

(4)　関西大学ボランティア団体引き継ぎ講座

コロナ禍で、同じ団体のメンバー同士が対面で会う機会が減少しているなか、学生団体を継続していくためには、自分たちが継承するだけでなく、次世代へ引継ぐことも重要なファクターになる。確実に引継ぎ、受け継いでいくために、ボランティア活動支援グループが支援する学生団体に向けて、この「引継ぎ」のノウハウを学ぶ機会を創出することを目的として実施した。

事　業　名	活動引き継ぎ講座～その「引き継ぎ」、本当に引き継げるの？～
日　　時	12 月 15 日（水）16 時 20 分～17 時 50 分
場　　所	千里山キャンパス第 2 学舎 C301 教室／オンライン（Zoom）
講　　師	シチズンシップ共育企画　川中 大輔 氏
参　加　者	学生スタッフ 2 名、学内ボランティア団体 6 名、 ピア・コミュニティ所属学生 12 名
内　　容	コロナ禍で学生団体が次世代へ引継ぐノウハウ

2　社会貢献を行う学生団体

本学では、社会貢献活動を団体の活動として行っている学生がいる。彼らの活動は、学外からも高く評価されており、ボランティアセンターを通して各団体にボランティア依頼が多数寄せられる。

ここでは、団体の活動紹介と活動に関わっている活動者の声を紹介する。

(1)　手話サークル「あっぷる」

目的

聞こえる聞こえないに関わらず、楽しむことを大切にしながら、日々手話の学習や手話エンターテインメント（手話歌・劇）などの練習を行っており、手話における表現力とは何かということを意識し、その向上に取り組んでいる。学園祭では、手話を交えた歌の発表を行うことで手話の普及、イメージチェンジなどを図っている。また、他の大学との交流や、地域のサークルでの活動で実際に聞こえない方と会話することで実践力を高める活動も行っている。

あっぷるん

内容

毎週 2 回、手話の学習会を実施したり、手話歌や劇などの発表では、団体として統一感を意識しながら、さまざまな人に活動の成果を見てもらう機会を設けている。さらに、他団体との交流会では活動施設の手配から、手話通訳の依頼に応えたりと、大学外においても活動の幅を広げている。それらの活動を通して、たくさんの人々との出会いや今までにない経験を積むことができるよう取り組んでいる。（2021 年度は新型コロナウイルス感染拡大のため、オンライン用いて学習会や交流会等を行った。）

【主な活動】

・手話コーラスの動画撮影　・クリスマス会

活動者の声

○手話コーラス動画撮影

私にとっては、初めて手話コーラスに参加させていただく機会が 2021 年度の活動でした。それまでは、手話単語等を覚えることに必死になっていましたが、先輩方と話し合いながら、歌詞に合った手話をリズムに乗せて表現できるように一から考えることで、知らなかった単語を自然と身につけることが出来ました。また、ずっと Zoom で活動していた影響で、メンバー同士の関係性が普通よりも希薄になっているように感じていましたが、少人数のグループで密に連絡を取り合い、練習日程を決めたり、一つのものを完成させたりすることによって皆さん方との距離も近くなったように感じています。

（社会・2 年次生）

○クリスマス会

クリスマス会では、プレゼント交換はもちろん、手話を用いたクイズ大会などのレクリエーションを行いました。たくさんの OB の方にも集まっていただき、楽しいイベントになりました。また、幹部引き継ぎという意味でも、自分にとっては一つの区切りになりました。卒部される方からの挨拶や、次期幹部になる自分たちの意気込みを伝え合うことで、気持ちが引き締まりました。

（社会・2 年次生）

代表者の声　村上　緑

2021 年度のあっぷるは、コロナ禍で制限されていた活動を少しずつ再開させることができました。週に 2 回の活動のうち、両方を Zoom で行っていた時期もありましたが、そのうちの一度は対面活動にするなど、工夫してサークル内での交流も盛んにしました。特に、SNS を通して手話コーラスを発表したことが印象に残っています。対面で発表すると人との距離も近くなることを想定し、少人数のグループに分け、動画を撮影することで、感染症対策を行いました。この新しい試みを企画し実行することによって、幹部や部員は結束力を強め、大きく成長することができました。このような経験を活かし、2022 年度ではさらに活動の幅を広げ、ここ数年できなかったようなイベントや例年行ってこなかったようなことなどにも挑戦していきたいと考えています。また、これまで以上にサークルとしてのあっぷるを盛り上げていきたいと思います。

(2)　児童文化研究サークル子どもの国「あかとんぼ」

目的

ピロンくん

小学校の学童保育への訪問や子どもに関する地域行事への参加を通し、子どもたちと交流することで「いつもとは違う有意義な体験」を子どもたちに楽しんでもらうことを目標としている。

内容

毎週水曜日に小学校の学童保育を訪問し、人形劇や紙芝居を披露したり、外で子どもたちと一緒に遊んだりする活動を行っている。また、土日や祝日では児童館や地域こども会などの依頼を受け、季節の行事に参加するなどの公演活動を行っている。（2021 年度は新型コロナウイルス感染症の影響により学童訪問は実施せず、2021 年度後半より公演活動を再開）

【主な活動】

・オンライン春合宿　　・チルドレンコンサート
・あかとんぼカーニバル　　・ちびっこサイエンスフェスタ
・KANSAI FOODFES 2022　　・節分イベント

活動者の声

○チルドレンコンサート

子ども達の前でダンスや劇をするあかとんぼの恒例行事「チルドレンコンサート」、2021 年度はその様子を動画にして子ども達に届けました。「このセリフはこんな風に言うと良いんじゃないか。」「ここの振り付けもう一回練習しよう。」とメンバー内で試行錯誤しながら、先輩から後輩までが協力し合って素敵な動画を作ることが出来ました。学童の子ども達から動画の感想が書かれたお手紙をいただいた時、何とか動画という形でを子ども達に届けられて良かったと思いました。

（文・2 年次生）

○あかとんぼカーニバル

五月山児童文化センター様より施設の一部をお借りして、あかとんぼの主催のイベント「あかとんぼカーニバル」を開催しました。参加してくれた子ども達は、私たちが準備した輪投げや工作等の出店、紙芝居などを大いに楽しんでくれた様子で、その楽しげな姿や笑顔を見てあかとんぼの活動の意味を強く感じることができました。自らイベントを主催する経験と子どもたちの反応の両方を得ることができた貴重な経験であったと感じます。

（社会・2 年次生）

代表者の声　福島　魁士

2021 年度のあかとんぼは「蓄積」の年になりました。本来の活動である学童訪問、公演活動がなかなかできず、時期によっては対面での練習活動すらままならないこともありましたが、決して足を止めることなく、オンラインを中心に活動を続けました。その結果、活動実績がない中でも多くの新入部員を確保し、メンバーのモチベーションを保つことができました。また活動の場を対面に移した後期には、あかとんぼ最大のイベントであるチルドレンコンサートや、念願の子どもと関わる公演活動を実施する中で、子どもと関わることの楽しさや活動を通しての達成感をメンバー全体で共有することができました。2022 年度は公演活動や練習を継続することで実績を重ねていき、学童訪問を再開させることで、あかとんぼ完全復活の年とすることができるよう、メンバー一丸となって活動に取り組んでいきたいと思います。

(3)　児童文化実践サークル「うぷ」

目的

吹田市内の学童保育学級に通っている小学校１年生から４年生を対象とし、子どもの成長に携わることを目的とした活動を行っている。

子どもたちと年齢の近い私たち大学生が関わることで、普段接している指導員の方が見ることのない一面を引き出すことができる。そして私たちの行動が子どもたちの見本となることを心がけている。

ぱんぐーちゃん

内容

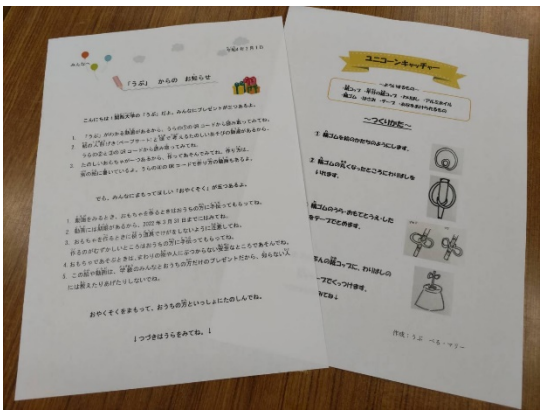
毎週水曜日に吹田市内の小学校の学童保育を訪問し、子どもたちと遊んだり、うぷのプログラムである ペープサート(紙の人形劇)、紙芝居、身体を動かすゲームを子どもたちの前で披露している。また、そ の他にも夏休みの長期休暇を利用して地方の小学校に訪問し、体育館をお借りして １ 日間公演を行う合 宿公演や子ども野外カーニバル、普段訪問している小学校の子どもたちを大学に招待するイベントを行 っているが、新型コロナウイルス感染拡大の影響で全ての行事は中止となった。

子どもたちに楽しさを共有する活動をコロナ禍でも実施したいと考え、部員で作成した動画や、手軽に遊べるおもちゃ作りの手順などが書かれた印刷物を、各学校に配布することとした。

【主な活動】

・舞台立て練習会　　・プレゼント配布企画

・新入生プログラム発表会



活動者の声

○プレゼント配布企画

2021 年度は新型コロナウイルスの影響により学童保育や夏合宿など子どもたちに対面で接する機会はありませんでした。しかし、そのような中でも 1、2 回生が主体となり紙芝居やペープサートの動画を作成し、普段使用している名札とともに学童保育の子どもたちにプレゼントを贈りました。子どもたちや指導員の方からコロナ禍が落ち着いたらまた来てくださいとの言葉もいただき、普段通りの活動ではありませんでしたが実施して良かったと感じています。

（経済・4 年次生）

○プレゼント配布企画

毎週水曜日に、吹田市内小学校の学童保育学級に訪問し、紙芝居やゲーム、ドッジボールなどをして子どもたちと楽しさを共有する活動をしていましたが、コロナ禍で、子どもたちと直接ふれ合って遊ぶことも、会うことすらもできませんでした。

私たちはコロナ禍でも子どもたちと楽しさを共有したいと考え、オリジナルのおもちゃづくり動画や、紙芝居、ゲームの動画、サークルメンバー名札集を製作し、今まで訪問していたすべての学童保育学級にプレゼントする企画を実施しました。

最後まで学級の子どもたちに会うことができず、うぷに入部してくれた新入部員に子どもたちと直接ふれ合ってもらう機会をつくることができず、悔しい思いをしました。しかし、この企画を通じて各学級の指導員からのアンケートを実施したところ、お褒めのお言葉や感謝のお言葉をいただき、プレゼント企画を実施して良かったと思うことができました。

（環境都市・4 年次生）

代表者の声　杉山　武優

私たちの活動の中で、最も重要だと考えていることは、子ども達の成長を感じられること、自分たちの活動によって子ども達が笑顔になってくれること、一緒に自分たちも楽しめることだと考えています。

2021 年度は、新型コロナウイルス感染拡大の影響がつづき、主な活動の一つである学童保育も行えない状況でした。部員全員は、早く子どもたちと直接関わりたい思いが強く、今後の活動について何度も話し合いを行い、新入生の勧誘に力を入れてきました。その為、少数ですが新入生が加入してくれたおかげで、うぷの新たな形の活動を実施することができました。子どもたちの成長を間近で見る機会は減ってしまいますが、普段から活動を支えてくださる方々への日々の感謝を忘れず、今後も精一杯努力を続けていきます。

(4)　ボランティアサークル「チャレンジャー」

目的

ボランティアサークル「チャレンジャー」は、視覚特別支援学校や障害者福祉施設のイベントにボランティアとして参加することによる社会貢献を目的としてる。また、普段接する機会の少ない障がいのある方との関わりを通して障がいに対する理解を深め、私たち自身も成長することをめざしている。

チャレンジャーマン

内容

従来は視覚特別支援学校での行事における手引きやサポート、障がい者福祉施設「ゆうゆう会」での行事における車いすでの移動のお手伝いや食事介助、トイレ介助などを行うことが主な活動内容だった。また、子どもとふれあうボランティアや 24 時間テレビの募金活動も行っている。しかし、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、今年度はオンラインでの活動のみとなった。

【主な活動】

・まちをつくろう　　・風船バレー
・ゆうゆう会

※「まちをつくろう」とは、ダンボールを使って“まち”をつくる夏休みの小学生向けワークショップです。

活動者の声

○まちをつくろう

住まい情報センター、建築学会、建築士会や多数の大学とともに小学生のお子さまとそのご家族さまが、2 日間かけて段ボールを用いて、大きな家を製作する活動を通年行っていますが、しかしながら、今年はコロナ禍のため Zoom を繋ぎながら参加者の方々が自宅でペーパークラフトで家を作成し、インターネット世界の広場にその家を反映させることで 1 つの「まち」を作り上げる活動となりました。

活動を通して、遠く離れていてもどんな状況下であっても同じ場所に集まって 1 つの目標に向けて全員で取り組むことができると改めて気づかされました。また、一緒に参加した同じ大学、違う大学、多数の社会人の方々とも協力して参加される方々に最大限楽しんでいただけるよう試行錯誤を繰り返してより良いイベントにしていくことが大きな経験になりました。

（経済･4 年次生）

○ゆうゆう会

毎月 1 回、身体や脳にしょうがいを持つ会員さんとともに、お出かけやレクリエーションなどを行いました。コロナ禍ということもあり、開催がそもそもできなかったり、制限されることも多かったですが、自分たちにできることを探し、感染症対策を徹底したうえで、会員さんと一緒に楽しむことを目標に活動を行いました。また、大阪大学のボランティアサークルとともに活動することでわからないことを相談しあったり、予期していなかった事態に対して、ともに考え、行動することで様々な考え方や見方を学ぶことができました。

（システム理工･4 年次生）

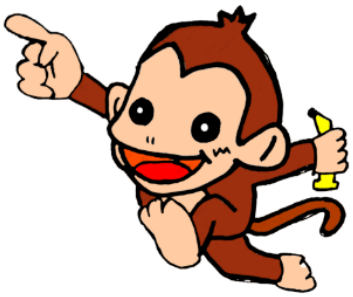
代表者の声　御福　和真

2021 年度は昨年度同様新型コロナウイルスの蔓延によって活動ができない時期がありましたが、無事に秋ごろから活動が再開できました。そこで一昨日まで関わっていた方々と再びお会いすることができました。半年という短い期間ではありましたが、ボランティア活動の楽しさと喜びを改めて感じた一年となりました。まだまだこの活動をしていきたいなと強く思ったことを鮮明に覚えています。来年度からは代表が代わり、後輩たちが活動を引き継ぐことになります。コロナ以前のように十分な活動ができない可能性はありますが、オンライン活動などコロナ禍で得た経験はチャレンジャーにとって良いものにはなったと考えています。昨年を含め２年間活動が出来なかった分来年度はより有意義で楽しい活動ができるようサポートしていきたいです。

(5)　文化会「ユネスコ研究部」

目的

私たちはユネスコ憲章にある「心の中に平和の砦を」という理念に則り、主に子どもたちとの交流を中心としたボランティア活動を行っている。子どもたちに、普段あまり関わることのない大学生との交流を通じて、異世代交流の楽しさや集団行動の大切さを学んでもらうことが目的である。また、子どもたちとの交流により、部員が行動力や責任感を培い、新たな成長に繋げていくことも目的の一つである。



ゆねもん

内容

吹田市在住の子どもたちと、月に一度交流する「スクール」を中心に活動している。「スクール」では、運動や料理、工作などをしたり、遠足やキャンプなどの活動も行っている。その他には、吹田市を中心に地域イベントの運営補助や企画、子ども会で行うイベントの運営補助などのボランティア活動にも取り組んでいる。

【主な活動】

・スクール　　・「吹田ジャズ・ゴスペルライブ」運営補助

活動者の声

○スクール

スクールは毎年吹田市に住む小学生を対象として参加者を応募しています。2021 年度は感染症拡大や天候による中止もありましたが、久々に再開することができました。小学生と関わることは部員にとって非常に貴重な経験であり、参加してくれた小学生にとっても楽しんでもらえる活動にできたのではないかと思います。また、スクールの体験にきてくれた学生が入部を決めてくれました。2022 年度も引き続き活動できるよう、感染症対策を講じながら活動していきたいと思います。

（文・3 年次生）

○スクールキャンプ

2021 年度は実施できませんでしたが、毎年夏休みにスクールで交流している小学生と一泊二日の宿泊行事を行っています。保護者の方からお子さんをお預かりするので、特に怪我やトラブルに注意する必要がありますが、普段とは違うことを体験できる楽しい行事です。また、部員同士の団結力もこの 2 日間で深まります。2022 年度は参加してくれた小学生と共に成長し、楽しめるスクールキャンプを開催できたらと思います。

（文・3 年次生）

代表者の声　柳瀬　太希

2021 年度前半は緊急事態宣言が発令されて、一切活動ができませんでした。しかし、8 月に部として一年半ぶりの活動ができるようになり、そこからは毎月活動することができました。行事や SNS で活動再開を告知し、部活動体験も並行して行ったため、部員も続々と入ってきてくれて、ようやく部活動らしいことができました。何よりも、活動前に十分に感染症対策を講じたことで、活動によってコロナの感染者がでなかったことが１番の成果であったと思います。思い通りにいかなかったことの方が多かったのですが、コロナ禍での部の在り方をようやく見つけ出すことができた 1 年でした、2022 年も感染者を出さないよう十分な感染症対策をとった上で、活動の輪を広げていけたらと思います。

(6)　学生団体「KUMC」

目的

私たち「KUMC」は、地域の住民や子供たちを中心として地域に向けて防災に関する情報を発信し、地域全体の防災意識の向上に貢献することを目的として、地域密着型の防災啓発活動を展開している。そして、実際に災害が起こった時に、自分たちが伝えたことが活かされることを目標にしている。また、地域のお祭りやイベントなどにおいて、企画運営や警備のボランティアなどに参加することで、地域振興のお手伝いをするなどの活動にも取り組んでいる。

くまっく

内容

地域の小学校における防災授業や図書館での防災絵本の読み聞かせなどさまざまなイベントに参加し、防災の知識を楽しく学んでもらえるよう取り組んでいる。また、活動では自作のパワーポイントやゲームを取り入れ、より楽しく知識を学んでもらえるような工夫をしている。

地域貢献活動として、吹田市、高槻市などを中心にさまざまなイベントにボランティアとして参加し、毎年春と冬には、学習の一環として東北地方を訪れ、語り部さんからお話を聞くなどして震災とその復興について学んでいる(2020 年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、中止)。

【主な活動】

・しゅくだいカフェ　　・防災クイズ大会（オンライン）
・Pico エコカフェ NAZ　・ミューズ防災授業見学

活動者の声

○viva! しゅくだいかふぇ

2021 年度、初めて参加させていただいたボランティアです。新型コロナウイルス感染症が猛威を振るう中、自分たちで調べ、アポを取り、実際に代表の方とお話をして、ボランティア活動に参加をさせていただきました。活動内容としては、放課後の居場所作りを目的に、勉強や遊びのお手伝いという形で、参加しました。感染症の影響もあり、大人数での活動ができない中、貴重なボランティア体験をさせていただきました。

（社会・4 年次生）

代表者の声　谷垣　伊織

感染症が猛威を振るう中、例年のような活動ができず悔しい思いもありました。そんな中でも新しい活動方法の開拓など様々な工夫をし、KUMC の活気を保つためにメンバーが一丸となって協力してきました。特に、中心的な活動である防災授業のオンライン化は感染症対策を講じる中でも遠隔授業を可能にするため、大きな成果であったと感じています。このように新たな活動方法を模索し続けた結果、新しいボランティアの依頼をもらうなどの進展もあり、先輩方が築いてきたKUMC の歴史を改めて感じるとともに、私たちとしてもKUMC を発展させられたのではないかと感じています。来年度も防災啓発と地域振興という軸のもと、多くの活動やボランティアへの参加を行い、さらなる飛躍を目指して日々挑戦をしていきたいと考えます。

(7) 「WEVO」

目的

ボランティアサークル「WEVO」は、私たちにできるボランティアを楽しく行うことが目的である。また、活動する際に①地域とのつながりを大切にする、②事業所と連絡を取り合い調整や企画を行うことにより良い関係を築く、③ボランティア先での交流や経験を通しさまざまなことを学ぶ、という 3 点を意識して活動している。

オタノシミン

内容

主な活動は、社会福祉法人・堺福祉会・ハートピア堺での子ども食堂への参加である。2021 年度は高齢者を対象として英会話教室を月 1 回オンラインを活用して実施し、子ども食堂は不定期で実施した。その他、障害者余暇支援センターじらふでの水遊び活動や、グループホームに住んでいる障がい者の方との交流(月 1 回)を実施した。さらに、堺市中区地域包括支援センターでは、高齢者虐待防止啓発活動での動画作成(不定期)を実施した。

【主な活動内容】

・高齢者を対象とした英会話教室　・子ども食堂
・グループホームに入居している障がい者の方との交流活動
・高齢者虐待防止啓発活動での動画作成

活動者の声

○高齢者を対象とした英会話教室

このボランティアは今年度から新しく始めました。毎月テーマを 2 つ決めてパワーポイントを作成し、それを使用して簡単な英単語や文章を一緒に勉強しています。初めは Zoom で高齢者と交流するということで緊張や戸惑いもありましたが、毎月行っているうちに慣れてきて、楽しく活動することができました。参加してくださっている方の学生時代のお話を聴いたり、私たちが教えるだけでなく、反対に日本語を教えてもらったり、お互い勉強になっていると感じています。

（人間健康･4 年次生）

○子ども食堂

毎月 1 回地域の子どもたちとの交流をしていますが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、これまでのご飯を一緒に食べることをせず、テーマを決めて遊ぶことと最後にお菓子の配布を行いました。今年度は徐々にではあるが、活動も定期的に実施することができて、子どもたちと交流することで学校で流行っていることや好きなことを聞いたりすることができ、一緒に楽しい時間を過ごすことができました。

（人間健康･2 年次生）

代表者の声　栗原　なつみ

2020 年度はコロナ禍で思うように活動することができませんでした。しかし、2021 年度は 2020 年度の反省点を活かし、8 月以降はほぼ毎月活動することができました。新しいボランティアをしたいと思い、メンバーや施設の職員の方や社会福祉協議会の方と相談し、活動の幅を広げることができたのが 2021 年度の成果であると感じています。今までは子ども食堂を主な活動としてきましたが、活動の幅を広げたことで、普段関わる機会が少ない高齢者や障がい者との交流をすることができ、新しい考え方や価値観を知ることができました。2021 年度から始めた活動は、これからも継続していきたいと考えています。反省点としては、活動に参加するメンバーが固定化してしまっている活動もあるということ、メンバー同士の交流が少ないことが挙げられるため、サークル内で活動について共有したり、イベントをしたりして、これから改善していきたいと思います。

Ⅳ　広報活動

広報活動

ボランティアセンターでは、関大生にボランティア活動の魅力を伝えるために次の広報活動をおこなっている。

(1) Web サイト

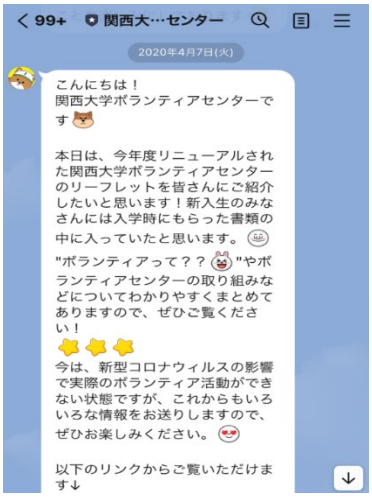
2019 年度より関西大学ボランティアセンターホームページがスマートフォンにも対応できるようリニューアルした。加えて、ボランティア団体の団体登録や学生ボランティア団体への依頼といった手続きを Web 上でもできるようになった。

ボランティアセンターリーフレットや過去の機関誌「Volury（ボラリー）」は関西大学ボランティアセンターホームページにも掲載しています。上記 QR コードにアクセスしてご覧ください。

(2) 公式 LINE

2019 年度より関西大学ボランティアセンター公式 LINE の運用を開始した。LINE では、ボランティア体験ツアーの紹介やピアサポート活動などを幅広く投稿している。これにより、メールマガジンよりも利便性の高い公式 LINE で、関大生に向けて充実した情報発信を行っている。

登録者数　1028 名（2022 年 3 月 31 日現在）



(3) 公式 Instagram

2019 年度より関西大学ボランティアセンター公式 Instagram の運用を開始した。Instagram では、学生スタッフの活動内容や講座の様子、ピア・コミュニティ、学内ボランティア団体の紹介などを幅広く投稿している。活動中の笑顔の写真を中心に楽しさが伝わる写真を投稿して、ボランティア活動に対するハードルを下げ、気軽にボランティア活動に参加してほしいという願いを込めている。

登録者数　431 名（2022 年 3 月 31 日現在）

(4)　ボランティアセンターリーフレットの配布

本学学生を対象として、2010 年よりボランティアセンターリーフレットを配布している。本紙は、ボランティアセンターの認知度向上とボランティアセンター学生スタッフを含む学内ボランティア団体の新入生獲得を目的に作成し、新入生全員に配布している。

2020 年度と同様に、2021 年度新入生に対しては PDF ファイルでの配布となった。

(5)　クリアファイル

2008 年度から学生スタッフがコンセプトとデザインを考え作成しており、配布したクリアファイルは、受け取った学生が日常的に使用することで認知度向上に繋げている。コロナ禍が続き、配布活動ができなかったため、2021 年度は新規の作成は行わなかった。

(6)　うちわ

2019 年度の新しい取り組みとして、うちわを作成した。ボランティアセンターの認知度アップとボランティアセンター学生スタッフを含む学生のボランティア団体の新入生獲得を目的に、2020 年度に配布するために作成したが、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため配布ができなかったため、2021 年度は新規作成を行わなかった。

(7)　機関誌「Volury（ボラリー）」の発行

ボランティアセンター職員と学生スタッフが編集委員となって作成した。職員は、アドバイスと校正を中心に行い、学生スタッフの自主性を引き出すように支援した。

「Volury」Vol.41（2020 年 4 月 1 日発行）8,000 部

新入生向けにボランティアセンター、ボランティアセンター学生スタッフの紹介をした。また、新入生に向けて、予定していた春のボランティア体験ツアーについて紹介した。

2021 年度は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、作成しなかった。

Ⅴ　資料

１　ボランティアセンター紹介記事

ボランティアセンター内規

制定　平成 17 年 4 月 28 日

（趣旨）

第１条　この内規は、関西大学学生センター規程（以下「規程」という。）第12条第２項の規定に基づき設置するボランティアセンター（以下「センター」という。）の運営等に関して必要な事項を定めるものとする。

（目的）

第２条　センターは、関西大学（以下「本学」という。）学生の社会参画活動を支援することにより、学生の自主性及び社会性の涵養に資することを目的とする。

（事業）

第３条　センターは、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

（1）　ボランティアの相談に関すること。
（2）　ボランティア情報の収集及び提供に関すること。
（3）　ボランティア講習会に関すること。
（4）　関係行政機関、学外ボランティア団体等との連携・協力に関すること。
（5）　その他ボランティアに関すること。

（登録）

第４条　センターの利用を希望する学生は、登録するものとする。

（センター長）

第５条　センターにセンター長を置き、学生センター所長をもって充てる。

（ボランティア連絡協議会）

第６条　センターにおけるボランティアの基本方針、具体的活動内容等を協議するため、規程第12条第２項の規定によりボランティア連絡協議会（以下「協議会」という。）を置く。

２　協議会は、次の者をもって構成する。

（1）　センター長
（2）　学生センター副所長　１名
（3）　専任教育職員のうちから学長が指名する者　若干名
（4）　学生サービス事務局長
（5）　学生サービス事務局次長
（6）　ボランティア活動支援グループ長
（7）　事務職員（ボランティア活動支援グループ・高槻キャンパス事務グループ・高槻ミューズキャンパス事務グループ・堺キャンパス事務室）若干名

３　協議会の議長は、センター長とし、副議長は議長の指名による。

４　第２項第１号、第２号及び第４号から第６号までに規定する委員の任期は、役職任期中とする。

５　第２項第３号に規定する委員の任期は２年とし、再任を妨げない。

６　委員に欠員が生じたときは、補充しなければならない。この場合において、後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

７　協議会は、必要に応じて委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

（学生スタッフ）

第７条　センターに、学生スタッフを置く。

２　学生スタッフは、第３条に規定する事業に参画し、本学学生のボランティア活動を支援するものとする。

（事務）

第８条　ボランティアに関する事務は、ボランティア活動支援グループが行う。

（補則）

第９条　この内規に定めるもののほか、ボランティアに関し必要な事項は、協議会の議を経て定める。

附　則

この内規は、平成17年４月１日から施行する。

附　則

この内規（改正）は、平成18年10月12日から施行し、平成18年８月１日から適用する。

附　則

この内規（改正）は、平成21年４月１日から施行する。

附　則

この内規（改正）は、平成22年４月１日から施行する。

附　則

１　この内規（改正）は、平成26年４月１日から施行する。

２　この内規（改正）施行の際、第６条第２項第３号により選出される委員の任期は、同条第５項の規定にかかわらず、平成26年９月30日までとする。

附　則

この内規（改正）は、平成27年４月１日から施行する。

附　則

この内規（改正）は、2019年10月１日から施行する。

関西大学ボランティアセンターにおけるボランティア団体の紹介に関する方針

2007年1月11日

関西大学ボランティアセンターでは、以下に該当するボランティア団体の活動を紹介します。

1　公益性・公共性が高い活動
2　営利を目的としない活動
3　活動にあたり、安全性が高いと判断される活動
4　受け入れた学生に対し、教育的配慮を伴った対応をする団体における活動

（１）　ボランティア募集の受付

① 初めてボランティア活動を募集する団体は、「団体の責任者の名刺」、「組織概要がわかるパンフレット等」および「ボランティア募集チラシ（A4サイズに限る）」を持参のうえ、来室をお願いします。（教育委員会等の公共的機関の場合はこの限りではありません。）
② 来室時に所定の「ボランティア団体登録用紙」に記入をお願いします。
③ ボランティア募集団体には、必要に応じて、規約、役員名簿、収支報告書、活動報告等の団体の実績がわかる書類等の提出をお願いすることがあります。あらかじめご了承ください。
④ 学生等がボランティア活動を行った際に、募集条件と異なる状況が判明した場合、精神的・肉体的苦痛を受けた場合等には、そのボランティア団体の募集を停止します。
⑤ 個人からのボランティア募集は受付いたしません。（地域の社会福祉協議会、大阪ボランティア協会およびその他関連機関へご依頼ください。）

（２）　ボランティア団体・活動の選定基準（以下に該当するものは受付できません。また、この選定基準は受付時のみでなく、活動中にも適用いたします。）

① 法令に違反するもの
② 公序良俗に反するもの
③ 人体に有害なもの、危険が伴うもの
④ 政治的・宗教的活動を主たる目的とするもの
⑤ 関西大学ボランティア連絡協議会が不適当であると判断するもの

（３）　ボランティア受け入れ団体との申し合わせ

ボランティア受け入れ団体と関西大学ボランティアセンターとは、以下の点を申し合わせ事項として確認します。

① ボランティア受け入れ団体はボランティア申込者に対し、活動内容や条件等を提示し、その内容について両者の間で合意のうえ、活動を始めることとする。
② ボランティア受け入れ団体は活動を始める前に、オリエンテーション等を実施し、活動に必要な情報や留¥意点をあらかじめ伝達し、活動が始まった後は、必要に応じて研修・支援等を行うこととする。
③ ボランティア活動中は、各団体ボランティア担当スタッフとともに活動を行うこととする。
④ 学生がボランティア活動を行う際には、あらかじめボランティア保険に加入していることを必ず確認し、未加入の場合は活動させないこととする。
⑤ 次の内容を含む活動については紹介できないこととする。

（ア）　22時以降6時までの深夜早朝活動
（イ）　精神的、肉体的苦痛が心配されるもの
（ウ）　水泳監視、ベビーシッターおよび病人の介護等の人命にかかわることが予想されるもの
（エ）　車の運転
（オ）　本来、有資格者によってなされるべき活動

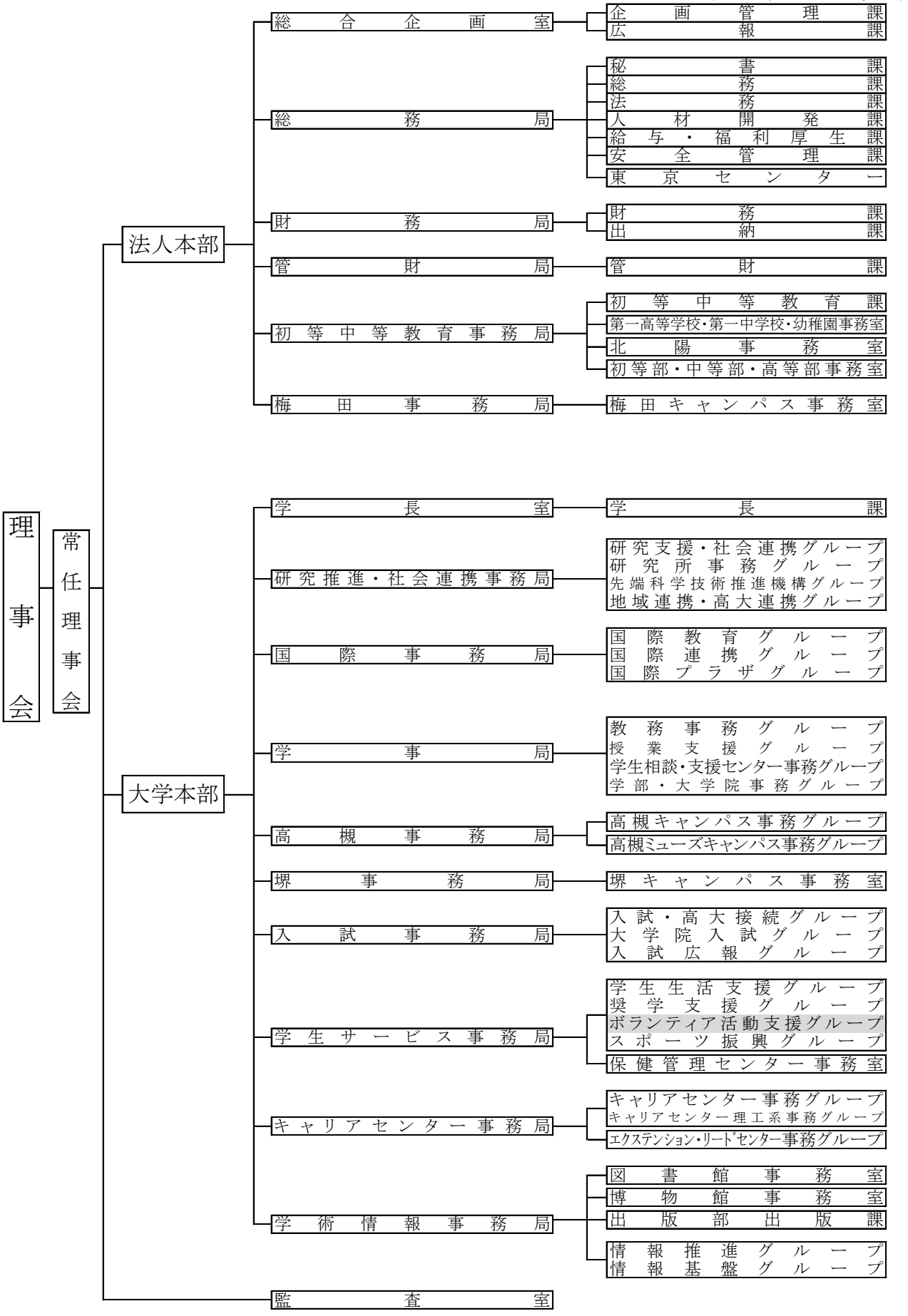
（４）　免責事項

ボランティアセンターで紹介するボランティア情報に関して発生したトラブル等に対し、ボランティアセンターでは責任を負いかねます。あらかじめご了承ください。

以上

2021 年度 事務組織図

(2021 年 4 月 1 日現在)



関西大学ボランティア連絡協議会委員

2021.4.1 現在

役　職　・　所　属	氏　　名	任　　期	備　　考
ボランティアセンター長 （化学生命工学部・教授）	松 村　　吉 信	役職任期中	内規第 6 条第 2 項第 1 号に定める委員 議長
学生センター副所長 （経済学部・教授）	石 井　　光	役職任期中	内規第 6 条第 2 項第 2 号に定める委員 副議長
人間健康学部・准教授	福 田　　公 教	2020.10.1 ～2022.9.30	内規第 6 条第 2 項第 3 号に定める委員
政策創造学部・准教授	西 山　　真 司	2020.10.1 ～2022.9.30	内規第 6 条第 2 項第 3 号に定める委員
システム理工学部・准教授	倉 田　　純 一	2020.10.1 ～2022.9.30	内規第 6 条第 2 項第 3 号に定める委員
学生サービス事務局長	鈴 木　　啓 祐	役職任期中	内規第 6 条第 2 項第 4 号に定める委員
学生サービス事務局次長	奈 須　　秀 治	役職任期中	内規第 6 条第 2 項第 5 号に定める委員
ボランティア活動支援グループ長	古 川　　弘 子	役職任期中	内規第 6 条第 2 項第 6 号に定める委員
ボランティア活動支援グループ	新 谷　　祐 希 橋 野　　真 歩 三　浦　　茜		
高槻キャンパスグループ	鈴 木　　宣 夫 古 林　　雅 代 川 井　　淑 江		
高槻ミューズキャンパスグループ	八 尾　　聡 美 中 村　　勇 毅 小 出　　翔 太		
堺キャンパス事務室	楠 田　　佳那慧 藤 本　　優 子		

1　ボランティアセンター紹介記事

関西大学通信　“KANDAI STYLE”
2021年4月1日　vol.488
発行：関西大学広報委員会

［座談会］

前田 裕
関西大学学長

河波 舞 さん
法学部2年次生

肖 引楽 さん
経済学部2年次生

新谷 裕 さん
総合情報学部2年次生

前川 沙喜子 さん
化学生命工学部2年次生

先輩“新入生”と学長が語る大学生活

ご入学おめでとうございます。コロナ禍で世界中が混乱する中、受験生最後の年を過ごした皆さんにとって、大学という新しい世界は期待と喜びに満ちていると同時に、不安に感じている部分もあるのではないでしょうか。4月号では昨年、新入生として入学した皆さんの先輩と前田裕学長の座談会をお届けします。

前田学長　皆さん、昨年は入学式がなくなっただけでなく、いきなりオンライン授業が始まり、大変な苦労をされましたね。でもよく頑張ってくれました。今年も予断を許しませんが、皆さんの今の悩みや不安、後輩に向けたアドバイスなどを話してくれませんか。私も率直に話したいと思います。まずオンライン授業はどうでしたか?

授業について

肖　オンライン授業が始まった頃、授業で使うシステム「関大LMS」に戸惑っている人が多かったように思いました。私は留学生と同じ自身でシステムに慣れていたので、日本人学生に教えてあげたこともありました。

新谷　オンデマンド配信授業は自分の好きな時間に受けられるのは良かったのですが、実際にキャンパス内の各教室を移動するのが大学生らしいですよね。対面授業では相手との距離が近く感じられて安心できます。

学長　春学期、秋学期とも授業に関するアンケートをとりました。語学や実習、グループワークなどは対面授業の方がやりやすい、と学生が感じていることが分かりました。それでもオンライン授業にはそれなりのメリットもあります。オンラインの環境はどうでしたか?

肖　インターネット環境は十分でした。留学生は家族と連絡を取るためにオンラインの環境を整えている人が多いですね。

前川　初めは自宅のインターネット回線の状態がとても悪く、何度も接続が切れました。授業中に突然切れてしまったときは、つながりやすい場所へ移動して再接続。オンデマンド配信授業の履修が多かったので何とかなりました。

学長　コロナ禍が収束しない限り、大学の授業も対面とオンラインを組み合わせたものにせざるを得ません。それに皆さん方が卒業して何らかの仕事を始めるときも、リモートワークが視野に入ってきます。今のうちにオンラインに慣れておくことは無駄にはならないでしょう。課題はこなせましたか、あるいは何らかの工夫が必要でしたか?

全員　課題が多くて大変でした!

肖　先生は自主的に勉強させたり、知識を蓄えさせたりするために「課題」という形をとったのだと思いますが、提出の時期が集中したときは苦しかった。そのとき便利だったのは、論文データベース「CiNii Articles」です。これを使って、参考文献を探して勉強しました。

河波　関大LMSの「レポートの書き方ガイド」を参考にしました。提出期限に追われないように、優先順位をつけて早めに取り掛かりました。

学長　確かに「課題が多い」という学生の声はたくさん聞きました。これには教える教員側の事情が関係しています。「正しく理解できたか」「オンライン授業での評価をどうするか」という思いが課題を出すことにつながりました。

ですが誤解を恐れずに言えば、多くの課題をこなすのは、学生の本来の姿ではないでしょうか。実際に関大生はよく対応できて、以前よりも成績が上がったという調査もあります。2020年度秋学期に引き続き、2021年度も原則、対面授業で考えています。もちろん重症化しやすい基礎疾患を有する学生らのケアなど、対面授業を受講することが困難なケースには、可能な限り配慮します。

関大ポータル

履修科目や成績などの教務情報、各種お知らせなどキャンパスライフに必要な情報が手軽に閲覧できます。

関大LMS

教員から提示された教材を使って予習・復習し、課題に対するレポートなどを提出するシステムです。授業で分からないことを質問できるほか、自分の学習履歴を確認しながら効率的に学習を進められます。

利用者ID・パスワード

学内のパソコンやネットワーク、メールや各種システムを利用するには、利用者IDとパスワードが必要です。

※利用者IDとパスワードは学生証同様大切なものです。取り扱いには十分注意しましょう。

［座談会］

先輩“新入生”と学長

学生生活について

新谷　授業のない時間は自習室で過ごすことが多いですね。新聞や本を読むのが好きなので図書館もよく利用します。

前川　授業後、周りは自然に「実験の復習をしよう」という雰囲気になります。「自分も頑張らないと！」と思います。

河波　奈良県の明日香村で現地の人と活動する「飛鳥 光の回廊」を知って、ボランティアセンター学生スタッフになりました。関大前通りの清掃ボランティアで初めて活動できたときは「大学生らしいことがやっとできた」と感じました。

学長　**そうですね。授業以外の時間もとても大切だと思います。若者の成長には、他者との関わりが不可欠だからです。その関わりにインターネットをうまく使うのは有効です。本学だけでなく遠隔地の山形大学の先生らと交流したり、オンライン留学を利用してドイツの大学の先生や学生と連絡を取るなど、研究の幅を広げる学生も増えています。**

肖　一人暮らしの学生や留学生に一律金をいただきましたが、正直なところ生活は楽ではありません。コロナでバイトがなくなってしまった友達もいます。

前川　この異常事態でいつもと違った対応が求められているのは私たちだけではなく、大学も同じ。各大学が限られた資源で必要なサポートをしてくれていますが、これからも本当に困っている学生を支援してほしいと思います。

学長　**従来の奨学金に加え、コロナ対策としてさまざまな奨学金を設定しました。また本学独自の特色ある支援策もあります。例えば「ゆめサポ」事業です。学部生・大学院生の夢を実現するための支援金で、一人30万円。2020年度は応募者の中から155人に支給しました。新入生も21人含まれ、漢字検定に合格し上方の笑いを研究している留学生、家庭教師をしながら障がい者支援の勉強を続ける学生、割安でテニスラケットのガットを張り替える事業を始めた学生。いろいろな関大生の夢が花開こうとしています。2021年度も続けていく方針です。詳細が決まり次第お知らせします。**

新入生に伝えたいこと

新谷　最初は環境の変化に戸惑うと思うので、パソコンの基本操作にはある程度慣れておいた方がいいかもしれません。卒業してからも役立ちます。

河波　時事問題でも興味があるテーマでも、本や学術論文を読むことをお勧めしますね。論文のイメージができていれば、大学生になって自分がレポートを書くときに役立つはずです。

肖　日本語は建前と本音の表現が曖昧で、勉強すればするほど難しいです。関西弁が分からないときは辞書アプリを活用。そして、関大の公式アプリも便利ですよ。

前川　関大のキャンパスは緑もたくさんあって大好きです。時間割の空きコマなど自由な時間をどう使うかは本人次第。やりたいことができたら、それに向かって時間を大切にしてほしいと思います。

学長　**関西大学のキャンパスには、皆さんの人生を左右する何かが隠されています。専門知識の習得、課外活動を含めた多くの体験やこれらの環境が皆さんを導いてくれます。心をオープンにして、その宝物を探してください。**

論理的な文章を書こう

皆さんが大学で作る文章は、主にレポートや論文です。ある問題に対して、その答えとしての主張（意見）が個人的な意見や臆測のみに基づいているのであれば、それは単なる感想文になってしまいます。

レポートや論文を書くためには、しっかりとした調査を行い、問題をきちんと考察した上で、自分の意見を分かりやすく表現しなければなりません。

新入生に贈る100冊
関西大学×丸善雄松堂×紀伊國屋書店

いつでも、どこでも、本の世界へ

新入生と全ての関大生に贈る100冊

前田裕学長と大手書店が協働し、関大生に読んでほしい「お薦めの100冊」を選びました。「100冊の本」シリーズは今年で4年目を迎え、約8割が電子書籍で読めるほか、あなたの気分に合った本をおススメしてくれる新機能も追加。パソコンやスマートフォンなどで気軽にアクセスしてください。

2021 年度　活動報告書（第 16 号）

発　行　日　2022 年　9 月
発　行　所　関西大学ボランティアセンター
〒564-8680　大阪府吹田市山手町 3 丁目 3-35
TEL 06-6368-1121　FAX 06-6368-0703
www.kansai-u.sc.jp/volunteer

印　刷　所　大都印刷株式会社
〒550-0014　大阪市西区北堀江 3 丁目 6-3

関西大学ボランティアセンター

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3-35
TEL.06-6368-1121
FAX.06-6330-3703
www.kansai-u.ac.jp/volunteer/